

# 聖徒の道

2

1958年3月17日第3種郵便物認可(毎月1回1日発行)第8巻第2号 1964年2月1日発行 SEITO-NO-MICHI



1964年 2月号

一九六四年度の目標

- 一、すべての支部はアロン神権の定員会とグループを組織することによってアロン神権計画を完成する
- 二、改宗者のバプテスマを増加する
- 三、神権会出席率を伝道部平均三十パーセントから四十パーセントに上げる
- 四、聖餐式出席率を伝道部平均二十パーセントから三十パーセントに上げる
- 五、神殿訪問計画の資金及び霊的準備を完成する

予言者のことば

善い行い……………デビド・O・マッケイ… 74

伝道部長メッセージ

神権の権能とその救済……………

ダワエン・N・アンダーセン… 78

質疑応答……………

ジョセフ・フィルディング・スミス長老… 81

己が信仰によりて……………アルマ・P・バートン… 84

末日聖徒イエス・キリスト教会歴史枠(41)

ジョセフ・フィルディング・スミス長老… 91

メルケゼデク神権…………… 89

「奇しきみわざ」出版祝賀会……………104

系図のみちしるべ……………107

MIAリーダー……………108

伝道部扶助協会長メッセージ……………

ペギー・ヒュイシ・アンダーセン…112

ジョセフ・スミスの生涯……………114

扶助協会レッスン……………120

支部だより…………… 97

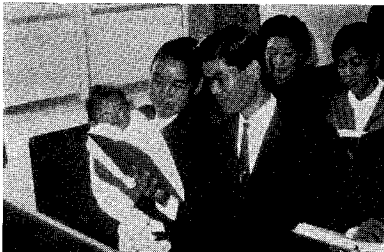
伝道部だより……………102

表紙

「わたしは生きるかぎり、主にむかって歌い、ながらえる間はわが神をほめ歌おう。」詩篇一〇四章三三節

自分を忘れて、神のみ名を讃美するため心をとめてうたう時、美しい歌は神のみもとにとどくのである。

教会堂に集い讃美歌を歌う家族は第一副伝道部長山田五郎兄弟の家族である。





大管長会

左から 第一副管長 ヒュー・B・ブラウン 大管長 デビッド・O・マッケイ  
第二副管長 N・エルドン・タナー

予言者のことば

# 善い行い

大管長 デビド・O・マツケイ

スカウティングの父、サー・ロバート・バーデン・パウエルは、ボイ・スカウトたちが行いの善い法則を固く守るのをほめて、

「単に悪い癖のつかぬように自分自身を守るだけでは充分と言えない。あなたがたは善い行いも積極的にしなくてはいけない。善い行いをするとは、あなたがたが、友だちでも見知らぬ人でも、ほかの人々に「小さな親切」をすることによって自分自身を役に立てることを言う。それはむつかしいことではない。それにとりかかる一番よい方法は、毎日だれかに少くとも一つ「善い行い」をしようとする決心することである。そうすればあなたがたはいつも「善い行い」をする習慣が身につくにちがいない。

その「善い行い」はどんなに小さなことであっても、たとえば年とった婦人を助けて道の向う側へわたらせてやるとか、人に悪く言われているだれかに親切なことばをかけるとかいうことにすぎなくてもかまわない。

大切なことは何かを実行するということである。……あなたがたは今日ただ今それを始

めるべきである。そして、もしもあなたがたが私に手紙を書いて自分のする一番始めの「善い行い」について話したいというなら、私はそれを喜んでうかがいましょう」と書いたことがある。これはスカウト・プログラムの中で毎日「善い行い」を實行することについて言われた最初のことばであると信じられている。そして、それはロンドンのボーイ・スカウトたちに南アフリカから手紙で送られてきた。

私は、マッケイ姉妹と私とが、アルメニヤ伝道部の名前で最初の大会が開かれた際、それに出席するためにシリヤへ行ったとき、聖書で名高いシカルの町で経験した一つの出来事をお話ししよう。

ヤコブの井戸の側でサマリヤの女に教えをお授けになった救い主の話は、これまでずっと私が好んでいる聖書の題目である。それで私は、この時私たちをのせて走っていた車の運転手が、シカルで車をとめて、この歴史上有名な所を訪ずれる特権を与えてくれることを望んでいた。しかし、この運転手は前以て私たちに、ヤコブの井戸のところで車をとめている時間はないでしょうと話していた。

しかし、不思議に思ったことであるが、私たちがちょうどシカルの町に入ったとき車の前輪がパンクした。運転手はひじょうにがっかりしたが、私はそれをほとんど神のみこころであると思った。それで、私とマッケイ姉妹とはすぐさまこの機会を利用してヤコブの井戸を訪ずれた。

そのとき私たちの側にその土地の少年が立っていた。この少年だけが英語を理解することができたので、彼は喜んで私たちを案内しましょうと言った。私たちはひじょうに興味深い四十五分間をそこに費やして、私たちがその場所に望んだすべてのことを果すことが



### 神権の権能とその効用

「神権とはいかなるものなりや。そは天地を問わずそれを支配する神の権能なり。何となれば、天地間の万物を支配し、万物を支え万物を維持するものこそその権能、力、もしくは根本の原理なればなり。神権は万物を支配し、万物を維持す。されば神と真理とが合体せる万物と関係あり。すなわち神権は天上における「英知」に、また地上における人間に委任されたる神の権能なり」（ジョン・テイラー大管長）。

神権とは神の権能にほかなりません。人間がこの権能について隅から隅まで完全に理解することはできませんが、近代において神権と完全な福音が回復されましたので、私たちはこの権能の実態に



伝道部長

ダワエン・N・アンダーセン

ついてかなりの理解を得ることができません。

**創造する力。** 神権によって多くの世界が生じ、生命がその上に置かれます。神権によって恒星や惑星の廻転と時と季とが支配されます。神権は天地宇宙を支配する力であり、また人類に祝福と進歩とを与えるために教会を組織運営する力でもあります。

**儀式を執行する権能。** 神権をもつ者は神の王国である教会へ入るために必要な儀式を執り行なう権能があります。生きている者と死んだ者との差別なく、これにバプテスマを施し聖霊を授け、また聖餐をわかち与えることも、神権をもつ者によって執り行なわれなくてはなりません。神権がなければこれらの儀式は神に受け入れられないからであります。メルケゼデク神権をもつ者は、正当な鍵を持つ者の指示を受けて他の者を神権者に按手聖任する権能があり

ます。

福音を説き教える権能。過去から現在にいたるまで、神のことは神権の権能によって宣べ伝えられています。だれでも義しい教えを教えることができますが、神権の権能によって召され特に任命されている者のほかはだれも聖霊の「みたま」によって福音の根本真理を有効に説き教えることはできません。

「みたま」の賜。これらの賜はいつもイエス・キリストの教会と共にあり、神権の力を証明して居ます。「信じる者には、このようなしるしが伴なう。すなわち、彼らはわたしの名で悪霊を追い出し、新しい言葉を語り、へびをつかむであろう。また毒を飲んでも決して害を受けない。病人に手をおけばいやされる」(マルコによる福音書十六〇七―十八、「教義と聖約」八十四〇六五―七十七参照)。これらの賜についてはまた「信仰箇条、第七条」に「われらは異言を語る力、予言する力、啓示、示現を受くる力、病を医す力、異言を積く力等の賜あることを信ず」と説明をしております。神権をもつ者は天が開けて啓示を与えられる力、もしくは病人をその病の床から起き上らせる力をもって居ます。これらの賜は人類の永遠進歩にとってなくてはならぬものであります。

結び固めの権能。「わたしは、あなたに天国の鍵を授けよう。そして、あなたが地上でつなぐことは、天でもつなぐがれ、あなたが地上で解くことは天でも解かれるであろう」(マタイによる福音書十六〇十九)。今日、墓を越えたあなたの世にまで力の及ぶものは神権のほかに何の力もありません(「教義と聖約」百三十二〇七また四十五―四十六参照)。神権の権能により、また神の官居(神殿)で行なわれる儀式によって、夫婦とその子供とは、各自がその誓約を忠

実に履み行なうかぎり、永遠に一つの家族として「結び固め」られるのであります。神権をもつ者は、生きている者にも死んで居る者にもこの儀式を執り行なう権能があります。

家長として管理する。教会によれば、家庭は父親を家長に戴いて、授けられたその権能と神権の霊気によって管理されるように組織されています。父親は代表者であって、家族のために最終の決定をする権限をもって居ます。そして、食卓についたときにも祈りを捧げるときにも管理をし、家族生活の全体に一般の指示をいたします。父親は自己の家族をあずかった管理人として主なる神に責任をもっています。

神権の鍵。神権をもっている者は一人のこらずみな神に代って執り行なう権威と権能をもって居りますが、この権能の行使を命ずる権能は「神権の鍵」と言われています。すべての鍵をもっている人は一代一人かぎりであって、この人こそ予言者である教会の大管長であります。教会の大管長は必要に応じてこの鍵の一部をほかの者に委任することができます。これが神殿の儀式やそのほかいろいろの儀式のような教会の公式の活動を管理指導する権能であります。

神権のすばらしい権能とその効用とは、神権をもつ資格があるかないかによって左右されます。「見よ、召さるる者は多けれども選ばるる者は少し。選ばるることなきは、これそもそも何の故ぞ。それは、人の心甚しくこの世につけるものの上にある、唯々人間のほまれを得ることをのみ望み、次の如き一つの戒めを知らざるによる。曰く、神権の権能は天の能力と固く結びつきて離るべからざるものにして天の能力は正義の原則によりてのみ支配し運用し得るものな

り」(「教義と聖約」百二十一〇三十四—三十六)。

その運営の方法は「教義と聖約」第二百十一章、四十一—四十六にあるように独特かつ神聖なものであります。「如何なる権力も勢力も神権によりて維持する能わず、また維持すべきものにあらず。ただ説服と堅忍と柔和と温清と偽わらざる愛とによる。また、親切と淨き知識すなわち偽善にあらず奸知にあらずしてその人を甚だ大いならしむるものによる。すなわち、聖靈に感動しては機に臨みて激しく人を責む。然る後、また彼の汝を敵視せざらんために責めたるその人に一層の愛を示す。かくて、彼は汝の誠実は死のきつなよりも強きことを知るべし。すべての人に対して、また信仰ある家族に対して汝の腹中を慈愛にあふれしむべし。絶えず徳を以て汝の想をかざるべし。然るときは汝の自ら信ずること神の前に強くなりて、神権の教理は天より下る露の如く汝をうるおさん。聖靈は常に汝の伴侶となり、汝の笏は真理と正義の変ることなき笏となり、汝の支配は永遠の支配となりて強いらるることなく永遠に汝に流れこまん」。

ある人の霊の状態は、その人が自分に授けられた神権をあがめて用いる程度によって異なります。これと同じように、霊の方面に關する支部の状態は支部の神権者の忠実さによって異なります。神権をもっている教会の兄弟たちが各自の義務を尽すときに、教会は安全で進歩発展いたします。しかし、教会の兄弟たちがその義務をおこたるならば教会の進歩はおくれます。

それでありますから、充分資格のある忠実な神権者があらわれるとき始めて日本と沖繩に教会の完全なプログラムを行なうことができるのであります。満十二才以上の男の会員が神権を得ることは、

その会員の一人のこらざるとして神聖な責任であり特権であります。ひとたび神権を受けたなら、その人は神権の権能を学び知ってこれを人類の祝福と発達のために用いる義務があります。

### 特別メッセージ

私たちは現在宣教師として召されている本伝道部の日本人宣教師たちの献身的なすばらしい働らきを喜んで居ります。日本人の宣教師たちはひじょうにすぐれた働らきをして居りますから、私たちは本伝道部で働らく専任宣教師の数をひきつぎふやして行きたいと思つて居ります。

ところで、私たちは日本人の会員たちがこれらの日本人宣教師たちを待遇する態度について前々から氣にかけて居ります。会員たちの中には、これらの若い人々がイエス・キリストの使者として召され、各自の神聖な職に按手任命されていることを忘れている人々があります。これらの宣教師は日本人であつて日本国内で宣教師として働らいていても、わが教会の宣教師でありますから外国から来た宣教師と同様に待遇すべきであります。これらの日本人宣教師は一切の宣教師規定に従がうよう要請されて居り、わが教会を代表する者としてふさわしいような行動をするはずであります。一人一人の宣教師は自分が実践しなくてはならぬ規定をもちろん知つていますが、会員たちはこれらの宣教師と交わるに當つて、時々かゝるはずみにあまらずに友だちあつたいをし無とんちやくであります。このようなことは宣教師たち、とくに婦人宣教師たちにとって困ることあります。

私たちは、あなたがたがこれら立派な宣教師たちを尊敬し支持をなさるようどうか切に勧め次第であります。そして、これらの宣教師たちがその神聖なつとめを十二分に尽すことができるよう助力を与えて下さい。これらの宣教師は握手をしたら親しい挨拶を交わしたりするほかに異性と何の交歩も持つてはならないのであります。

伝道部長 ダウエン・N・アンダーセン

# 安楽死をさせるのは正しいか

## 質問

私たちがクラスで勉強していたときに、「苦しい不治の患者に施す安楽死」が正しいと認められる時代が今までにあったかどうか、という質問が出ました。たとえば、ここにある老人の方があって、医者がとても治らないと言っている病気で危篤に陥っているとします。医者は、命をのばすことはできるが苦しみがつづくだけであって、結局死を避けることはできないと言います。この時医者が死を早める処置をとって、患者の肉体の苦痛を終らせてやったら正しいでしょうか。もしも医者が死を早める処置をとることに同意を与えたとしたら、医者とその処置を認めた人々とは共に罪があるとされて、さばきの時に責任を負わなくてはならないでしょうか。

## 質疑応答 解答者 ジョセフ・フィールディング・スミス長老

### 解答

この質問に対する答えは簡単である。生命をとることは、カインがアベルを殺したときに罪であると宣告された。そして、このおそろしい罪を犯したために、カインは死刑に処せられるよりもっとおそろしい罪を受けた。ノアとその家族が箱舟から出てきたあとで、主なる神はこの誠命を再び新たに「人の血を流すものは、人に血を流される、神が自分のかたちにして人を造られたゆえに」（創世記九〇六）と仰せになった。

いかなる智者であっても、病気が最も重くなり、きわめてひどい苦しみになやんでいる場合に、回復の望みが絶えたと言いつけるであろうか。これまで見たところ瀕死の状態にあり、はげしい苦痛になやんでいた病人が、回復した例は数多く報告されている。この質問に対して簡単に答えると、病気がかかっている人がとても治らない時期が来たので、安楽に死なせて苦しみを終らせるのが正しいであろうと考えるのは「出しゃばりな結論」である。ノアに与えられた神の誠命は今もなお有効であって、人間がこの世に居るかぎり神の律法の一部としてつづくにちがいない。

この「安楽死」という問題は、はげしい苦痛になやんで見たところ回復の望みのない個人の場合にたえず起る問題である。またこれはひどい奇形をもって生まれたために、その者自身ばかりでなくほかの者たちにも命のあるかぎり重荷となる奇形児の場合にも考えられてきた問題である。しかしながら、罪を犯した人々につきまとうて悩ます良心というものがあるので、これらの人々は罪を犯したという感情をいつも心に持って居り、心にけっして平安がないと思わ

この問題に関する討論はいつまでしてもはてがないであろう。千九百三十五年に、この「安楽死」の問題は英国の上院に上程された。この議案は、人々が「安楽死」を望むとき、それを許されるかどうか科学に決定をさせるためのものであって、労働党の指導者ボンソンプー卿が提出した。この問題について「デゼルト・ニュース」は次のように解説をした。

「ほかの国における如く、英国においても最近不治の患者に安楽死を施すことを合法化しようとする運動が盛んになってきているのが見られる。英国で行なわれた数件の『安楽死裁判』はこの問題に興味を起させるに役立って居り、著名な医師と教会指導者たちの支持する『安楽死合法化協会』はもはや一年以上も、或る場合に『安楽死』と言われていることのために運動を展開している。

ある英国人医師が五人の「不治の患者」を安楽死させたことから多くの医師としようとの人たちが、一生涯苦痛を受けないで済むならぬのでむしろ死を欲している患者の苦痛を終わらせることが正しいかまがらっているかについて議論をつづけている。

今、英国議会で討論をしている議案の条項によると、この法律は「保健大臣」に任命された調停官によって運営されることになっている。「安楽死」をさせるときには、その以前にこの調停官の許可を得なければならぬ。そして、「安楽死」を施すことは「激烈な苦痛を受けるか、治らぬで必らず死ぬ病氣」の場合にとくにかけられる。

「安楽死」をねがう病人は二十一才以上であつて精神の健全な者でなくてはならない。そして申請書は自筆で書かれ、二人の医師の証明を要する。もしも「安楽死」が許されたときに、申し込んだ

「安楽死」を施すのはとくに認可された医師だけであつて、しかも政府の証人の前で行なわれなくてはならない。

文明はそれを実現しないですでに解答を与えたようである。人類のもつ共通の良心は、だれでも他人の生命をとることが道徳上の罪であり犯罪であることを明言している。またそれと同時に法律が、王の意志であるにせよ人民の意志であるにせよ、人間の生命をとる権利をもつ唯一つの「人間の代理機関」であることを認めている。

国家によって、法律を執行する役人によって、または戦場における兵士によって人を殺すことは、現在正当であつて悪事ではないと認められている唯一つの殺人である。従つて、法律が是認しているならばその殺人は非難されない。しかしながら、なおわれわれはシナイの山でモーセに与えられた神の律法「汝、人を殺すべからず」といふ、広い意味において、いかなる場合にも人間の命をとつてはならないという律法に真面しているのである。

「安楽死」の問題が英国で討議されている間に、「ソルトレーク・ツリビューン」紙もまたこのような根本方針を立てることを非難する側に加わり次のように論じた。以下は千九百三十五年三月十二日の社説から抜粋したものである。

「人を殺すべからず」といふ禁制は、われわれの文明の中に強く且つ深く根をおろしているもので、それが正しいか正しくないかというような問題がわれわれの考慮にのぼることは稀である。公衆の感情がおおよそ互角にわかれているもつと議論の余地がある論争とはちがひ、正当な殺人に関する一般の信念はこの問題を議論のそとに置く傾向がある。

しかしながら、正しいか正しくないかとちらにしてよいかわから

ぬ事件が起ると、それはニュースだけでは無い事になる。それはまたわれわれの信念を固める基となる好い機会でもある。それであるから、英国で六十二才になる老婦人が低能児であるその息子を故意に「眠らせた」事件がひじょうに評判になった。この婦人は裁判を受け有罪であると宣言されて、彼女が三十年間にわたって看護してきた病弱な息子を殺したかどにより絞首刑を宣告された。しかしながら、英国の大衆がいたるところで減刑の要求を行なったのにこたえて、英国の内相は最近この婦人に刑の執行猶予を申しわたした。

多くの人々は、この人の手にたよらなければならぬ不具者を、苦痛なしにあの世へ送ったことは正当である、むしろ慈悲であるという理由で、この善意の老婦人のしたことを正しいとするであろう。しかしながら、このような議論は、この問題に含まれている社会的影響に対して全くめくらである。多くの人々の言うような前例を正しいとするならば、単に親だけでなくだれであっても、或る人間、それが不具者だけでなくほかの人間でも死んだ方が一層楽であるときめる権利があると考えるかも知れない。こうなると復讐の精神でまたは偏執病的信念によって、自分自身の高ぶった判断により人は全然権能がないのに、また全然正しいとされないので一服盛らないとはかぎらない。

自然の欠陥の多くを補うことにあるていど成功している文明と、長寿の技術をちやうど字び始めただけの社会において、故意の殺人を行なうことを奨励するのは少々早すぎると思われる。さらに、ある特殊の病気またはある一定の欠陥が不治であるかどうかという問題は容易にきめられない。ある病気が欠陥なりが不治であるとは必ずしも当然のことではないからである。たとえば、われわれは

僅かな内分泌学の知識しかもっていないけれども、幼年期に適当な処置を施さずならば、またもちろんその欠陥が遺伝によるものでないならば、ブラウンヒル夫人が「慈悲を以て眠らせた」あの息子のような多くの低能者は治癒するかも知れない。数年前まで不治であると考えられていた多くの状態が、今や治癒とまでは行かなくとも改善が可能であることがわかつてい。たとえば、インシュリンが発見されるまで糖尿病の治癒は絶望であった。またひじょうに最近まで悪性貧血症は致命的であると考えられていた。狂人の全身麻痺に對する予後は、オーストリアのある精神病医が、精神異状のあらゆる形態に最も有望な処置の一つとなつた治療法を発見するまで、不治であるといたところで考えられていた。ながらえていても無益な生命を苦痛なしに絶つてやるといふことが慈悲であると思える場合が多くあることは認める。しかし、実際の問題は「だれが決定するか」ということである。熟練した高潔な医師にいつでもこのような点について自由裁量をまかすほどには公衆の感情が明らかに熟していない。

われわれ人間の知識には限りがあり、人間性には弱さがある故に、少数の絶望的な不具者の生命と、人の親または「根絶者の会」に生死の問題をきめさせるために起るかも知れぬ破壊的影響とを天秤にかけてくらべるべきではないと思われる」——（以上社説欄より）。

われわれは、あらゆる人間の生命が主なる神の御手の中にあることを忘れぬようにしよう。死ぬべき身をもっている人間は、不具な人がこの世に生きながらえるべきか、またはこの世からとり去られ

# 己が信仰によりて

— イノス書第八章 —

アルマ・P・バートン

これまで人間が受けたことのある神に関する「あかし」について多くの注目すべき記事が記録されているが、これらの「あかし」は聖霊の証言を通じて、また「父なる神」と御子のあらわれによって人に与えられた。ロレンゾ・スノウ（大管長）はバプテスマを受け二・三週間たった後、自分の考え方によると、神のみわざの真実であることについて満足な知識を得ていなかったことをつくづく考えていた。

彼は自分の本をさし置き、家を出て、陰うつな心に支配されて野原をさまよって歩いたが、そのとき暗黒の雲が彼をとりまいて居るように思えた。彼はいつも夕方になると自分ひとりで祈るために林の中へ行くのが例であったが、このときは少しもそうしたい気持ちにはなれなかった。しかし、とうとういつものようにひとりで祈る時が来たことを知ると、彼はその気にはなれないけれども祈ろうと心にきめた。

彼が祈ろうとして口を開くやいなや、彼は頭のすぐ上で絹ずれのような音のするのが耳に入った。そして聖霊が直ちにお下りになって、彼の全身は完全に包まれ頭の上から足の先まで靈気に満された。「おお何という喜びと幸福の感じてであろうか！ 心と霊をおおっ

ていた暗雲がほとんど瞬間に消えて光りと知識がさんらんと輝やき出した、と私には思えたが、それはことばで以てあらわすことのできない経験であった。その時私は、神が生きたまい、イエス・キリストが神の御子であり、聖なる神権と完全なる福音とがこの世に回復されたことが完全に解った。その経験はまことに完全なバプテスマ、すなわち（この世の水に比ぶべき）天の靈気、聖霊に全身を没し、全身で感じとったバプテスマであった。またそれは水に沈めるバプテスマよりも、本当にもっと真実にまた私の肉体の全細胞にもっと強い力を及ぼすものであった。

私は完全に満足した。私の希望する以上のことが実現したのでそれはもっともなことであった。私は無限に満足したと言ってもまちがいではないと考える」

註。アルマ・P・バートン及びクレア・M・バートン共著「モルモンの歴史からの物語」十七頁参照。

「あかし」をもっている大いなる教会員は、彼らに与えられる聖霊の証言にもとずいてその「あかし」を得ている。しかし、「あかし」があるといっても、スノウ大管長のようなすばらしい経験によってその「あかし」を得た者はごくわずかである。また聖霊の証言

を得た上に、「救い主」が親しくあらわれたもうた結果、神の知識を得たことのある人々がある。

「予言者ジョセフ・スミスは、聖霊を通じて「あかし」を得るばかりでなく、主イエス・キリストがじきじき現われたもうたことによつても「あかし」を得ることがあることについて次のように言明をした。すなわちこれらの神聖なめぐみについて論じ、

「聖書に言われている『別の助け主』(慰め主)はきわめて重要な問題であるが、今の時代の人々でこれのわかっている者はごくわずかであろう。ある人はキリストを信じ、自己の罪を悔い改め、それから罪の赦しを得るためにバプテスマを受け次に按手によつて聖霊を受ける。この聖霊は『第一の助け主』(もしくは慰め主)である。それからこの人が神の御前にたえずへりくだり、飢え渴く如く義を求め、神のあらゆる言葉に従つて生活するならば、主は間もなく彼に『子よ、汝は高めらるべし』と言いたもうたであろう。主が彼を完全にした末、この男はいかなることがあろうとも主に仕える決心をしていることが解りたもうと、彼は『自分の召しと選びが確実にされた』ことを知るにちがいない。そうすると、彼はヨハネの「あかし」に記録してある通り(ヨハネによる福音書十四〇十六参照)、主が聖徒らに約束したもうた『別の助け主』(慰め主)を受ける特権をもつにちがいない。

「さて、この『別の助け主』(慰め主)とは何であるか。それは主イエス・キリスト御自身にほかならない。またこれが全体を要約した要点である。すなわちだれでもこの『第二の助け主』(慰め主)を得るときには、イエス・キリスト御自身につき添つて下さる、すなわち折々彼にあらわれて下さり、または彼に『父なる神』をあらわ

してさえ下さる。そして『父なる神』とイエス・キリストとは常に彼と共にましまし、主は彼に顔と顔を合せて教えたもうた故に、彼は神の御国の奥儀を完全に知ることができる。そして、これが古代の聖徒たち、すなわちイザヤ、エゼキエル、第三の天まで引き上げられたパウロ、パトモスの島に在つたヨハネ、天使の総集いと長子の教会とに親しい交わりをもつたすべての聖徒たちが彼らに許された栄光にかがやく示現を得たときに達したときの状態であり位置である。

註。「予言者ジョセフ・スミス説教集」十三—十四頁参照。

先の時代の予言者イノスは「あかし」を得るように祈つたときに経験したことを証言して次のように述べた。

「ごらん、私は獣を狩ろうとして森へ行ったが、私の父が永遠の生命と聖徒の幸福について教えた言葉を度々聞いたのが私の心に深くしみこんだ。

「そこで私は自分の心が飢えるのを覚えて、私の造り主の御前にひざまずき、自分の身と霊のために一心こめて祈りかつ願つた。私は本当に一日中神に祈り、夜なつてもまだ私の声が天にとどくほど大きな声で祈つた。

「すると一つの声が聞えて『イノスよ、汝の罪はすべてに許されたれば汝は祝福を受くべし』と仰せになった。

「私イノスは神が必ず偽を仰せにならないことを知っていたから、私の罪はすでにこれで取り消されたのである。

「しかし私が主よこれはどうしてそうなりますかとたずねたところ、

「主は、それは汝がこれまでに見しことも聞きしこともなきキリ

ストを信ずるによる。このキリストは多くの年月を経てはじめて肉  
体にて現れる。されば汝努めよ。汝は己が信仰によりて無罪となれ  
り、と仰せになった」(イノス書三十八参照)。

イノスはこれよりさき父から永遠の生命について教えを受けてい  
て、父の教えがひじょうに価値のあるものであることを認めてい  
た。それであるから、その教えのためにイノスはモルモン経にしろ  
してあるように神に祈りかつ願うに至ったのである。「自分の心が  
飢える」ということはの深い意味をよく考えられたい。空腹という  
ことばの意味は容易にわかる。しかしながら、心に飢え覚えるとは  
どういうことであろうか。われわれの心がいつも正しい營養を与え  
られていないということがあるだろうか。多くの人が心の生長をさ  
またげ、霊の生長を阻止しているということは有り得ることであ  
る。イノスの心はひじょうに飢えていた、それで彼の感ずる満足が  
主から与えられることをひじょうに望んだので、イノスは一日中夜に  
なっても神のめぐみを祈り求めた。イノスの切なる願いにこたえて  
主のみ声が彼に聞え、彼の罪がすべて許されたので彼は傷なくしみ  
なく無罪であるという保証を受けた。そこでイノスはどうしてそう  
なりまするか主と伺ったところ、主は「汝は己が信仰によりて」  
そうだったのであるとお答えになった。イノスはわからないことを  
聞きたいという考えで主と伺っただけでなくて、その考えと共に自  
分の質問には主が必ずお答えを下さるといふ心からの信仰を  
もって主と伺ったのであった。

モルモン経にあらわれる別の予言者である「ジェレドの兄弟」は、  
彼と彼の民が大洋を横ざりアメリカへわたらうとしていたとき、イ  
ノスと同じように主なる神のめぐみを祈り求めた。ジェレドの兄弟

は、主なる神が彼のつくった或る石に指をふれて、光を出す石にな  
したもうようおねがいをした。それは彼らが大洋をわたる際に舟の  
中に光があるためであった。ジェレドの兄弟はもちろんイノスと同  
様、主が親しく自分にあらわれて下さることができると固く信じて  
いた。それは彼があつた石を主の前にさし出したとき「主よ、汝はこ  
れを為すことを得。汝が現わしたもうべき力は、人の目に小さく見  
ゆるも実は偉大なることをわれは知る」と言っているからである。

「ジェレドの兄弟がこう祈ったときに主がその手を伸して一つ一  
つ石にその指をさわりました」と、ジェレドの兄弟の目から霧がとり  
去られて、ジェレドの兄弟は主の指を見た。その指は人間の指に似  
て血肉の指のようであつたから、ジェレドの兄弟は恐怖に打たれて  
主の前に倒れた。

「主はジェレドの兄弟が地に倒れたのを見て、立て、何故倒れた  
るか、と仰せになった。

「そこでジェレドの兄弟は、主が血肉の指を持っておりたもうと  
は知らなかつたから、主の指を見て、主が私を打ちたまいはせぬか  
と思つたからであると答えた。

「すると主は、汝の信仰厚き故に、われはわれがこの後血肉を受  
くる事実を汝に見せたるなり。これまで汝の如き大いなる信仰をこ  
めてわが前に来りし者なし。汝も、もしこれほど熱き信仰を持たざ  
りせば、わが指を見ること能わざりしならん。汝はわが指のほかに  
見たるものありや、と仰せになった。

「そこでジェレドの兄弟は、主よ指のほかには何も見ざりき。御  
姿をわれに見せたまえ、とねがった。

「すると主は、汝はわれがこれより告ぐることを信ずるや、と言

いたもうたから、

「ジュレドの兄弟は、主よ汝は真実の満ちたる神なる故、偽りが言えず真実を宣うことを知る、と答えた。

「かががこう言うと、主は現われてその姿をジュレドの兄弟の目に示して言いたもうた。汝はこれらのことを知る故に、もはや始祖の墮落よりあがなわれ、帰されてわが目のあたりにあり。故にわれは汝に現れてわが体を汝に示す。

「見よ、われはわが民をあがなうために創世の前より備えられたる者なり。わはイエス・キリストなり。父なり、子なり。わが名を信する一切の者はわれによりて永遠に光を受け、またわが息子、わが娘となる……」（イテル書三〇五—一四四）。

ジュレドの兄弟は主なる神を信する固い信仰をもっていたのに、主の姿が人間の姿そっくりなのを知って驚ろいた。しかしながら、まだ見ぬものをまこととする信仰が今や確実な知識となつたので、主なる神は、ジュレドの兄弟に、汝はこれらのことを知る故にアダムの墮落からあがなわれ、帰されて神の前に在りと仰せになった。モロナイはこの経験について、

「すでに神を知ると言うような完全な知識を得たのであるから、ジュレドの兄弟が幕の内を見ることを禁ずることはできなかつた。従つてジュレドの兄弟はイエスを見て、イエスは彼に導きとめぐみとを与えたもうた」としている（イテル書三〇二十）。

「この神権の時代」（あるいは末日）において、救い主は地上における数人の人々に現われたまい、その御声は「さきの時代」におけると同じように、これらの人々に天から聞えた。たとえば、ジョセフ・スミスは千八百二十年の春に「神聖なる森」の中で、「日の

栄の最高に昇りたもうたお方」である「万人の父なる神」と「世の救い主」とのお二方が現われたもうのを見た。またオリヴァ・カウドリとジョセフ・スミスとは、千八百三十六年にカートランド神殿で「救い主」を見た。またこの二人はイエスが「すなわち神の右に座したもう」のを見、「御父の生みたもう独子なり」と証したもう声」を聞いた。そして「主は実に生きたもう」、われらこれを見たからであると言宣した（「教義と聖約」七十六〇—二十二—二十三参照）。

ただ数人の人々がこのような経験をしている一方、聖霊の証言により神に関する確実な知識を得ている人々が無数にある。末日聖徒イエス・キリスト教会の会員はこの証しを得るよう努めなくてはならない。

聖霊が一人一人に与えたもう証しは「天にまします父なる神」より来るのであつて、この世のものを観察した結果与えられるものではないことはペテロの経験がはっきり示している。それであるから、もしもわれわれが聖霊の証しによつて神に関する知識を得たいと思ふなら、神を信する信仰をもたなければならない。人がこの方法によつて神の存在に関する知識を得てから、神は祈りを聞いてこれにこたえたもうということを実際に認めるようになったら、彼は自分の知識と証しを増し強めるように努めなくてはならない。ある讚美歌に「祈りは霊の希望」と言つてある。まことにその通りであるが、これまで霊の底から出る希望を祈りに託したことのある者が何人居るであらうか。祈りをする者は多くある、しかしその祈りにこたえられた者が何人あるか。

神の事に関する知識を増すためには祈りばかりでなく、信仰も勉強も実行も必要である。もしも人が、ひたすら神の栄光を仰ぎ見て

その道を歩むなら、その知識が増して証しはいよいよ強まり、靈の事に関してますます知識がふえるにちがいない。聖靈の働らきによって福音の証しを得、また神に関する事について知識が増進するためには、多くの時間と勢力と冥想と祈りと勉学とを必要とするが、知識はもっとも重要であり価値がある。この世に於て達したものは、この世に於てもまた次の世に於ても、神が生きたまい、イエスがキリストにましまし、イエス・キリストの福音は地上に在る人類を救う永遠の計画であるという確かな知識に比べると何の意味もないものである。

世の中の人がイエスのことを何と考えようと、また「時の絶頂」(イエス御在世の当時)に使徒たちが話しかけた人々のしたように、イエスが「パプテスマのヨハネ、エリヤ、エレミヤまたはその他の人々、または数ある予言者の一人」であると認めようと、それはかまわない。大事なことは、われわれの一人一人が、自分の心の中で、ペテロの宣言したように、イエスはキリスト、生ける神の子である、と知ることであるが、これは天からの啓示によってだけ伝えられることである。

予言者ジョセフ・スミスは「：聖靈によらなければ、だれも『イエスは主である』と言うことができない」(コリント人への第一の手紙十二〇三)という聖句は、正しくは「：聖靈によらなければ、だれも『イエスは主である』と知ることができない」であると述べた。イエスがキリスト、生ける神の御子、世の救い主であつて、あらゆる神権の時代を通じて世々神の予言者たちが宣言したように、この末日に地上へ再臨したもうということとはパプテスマを受けてこの末日聖徒イエス・キリスト教会の会員となつたすべての者の

もつ特権である。この知識は「己が信仰によりて」得られるし、また得られるにちがいない。

(アルマ・P・バートン、一九六三年二月「インプルーヴメントエラ誌」)

(83頁より続き)

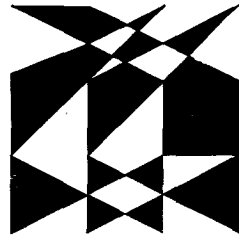
るべきかをきめる権利を与えられてはいない。またある人がいつ生涯を閉じるかを言うことも、われわれのなすべきことではない。神の御子の受けたもうたほどの激しい苦痛を受けた人間は、御子のほかに一人もない。みことばによると「その苦しみたるや、われ神、すなわちすべての中最も大いなる者なりといえども痛苦のために身をふるわせ、あらゆる毛の孔より血を湧かせ、身と霊とふたつながら苦しめ、すなわちこの苦きさかずきより吞まずしてしりごみするも可ならんことを欲したり。然はあれども、父なる神はほむべきかな。さればわれはこの苦しみをなめ、人の子らの為にととのえを為し終りたり」としてある(教義と聖約、十九〇十八―十九)。

われわれはこの問題につき注意深く考慮した後、もしもだれでも正常な精神の人がこのような行為を犯したなら、その良心のところが一生涯受けるにちがいないと結論しなければならぬ。どのような罰でも、罰を受けることに関するかぎり、それは最後のさばきまで延ばされる事である。

# メルケゼデク神権

インブループレメントエラ

(一九六四年二月号)



人間の「身も霊」もかちとるための戦いが活潑に行なわれている段階で、主の軍隊の隊長たちを白兵戦の行なわれている場から引きさがらせ、戦場からはなれて戦いの舞台を見わたさせるのはよいことである。この隊長たちが現在戦っている目的をはっきりと知ることができれば、彼らは心を新たにし、もつとよいチームワークで勝利を得るために戦いに入っていくにちがいない。

この戦いに従事している「主の軍隊の隊長」とは「定員会の会長」である。それならば、彼らが戦いの場からはなれて立ち、戦場を見わたし戦況を測っているとき彼らは何を見えるか。彼らが見るのは、すなわち、

(一) 三つの常任委員会の目的は定員会を全速力でたえず前進させるために定員会が必要とするすべての活動をのこらず含んでいること。

(二) もしも定員会の会員が、定員会のプログラムの中で建設的な役割をもつはずであるならば、以上の定員会を利用するのが定員会の運営に最もよい方法であること。

(三) 定員会の会長は「個人福祉委員会」を管理し、それによって定員会会員の福祉と慰安と経済上の幸福に対する責任をもつこと。  
四副会長の一人は「教会活動委員会」を管理し、それによって定員会に活気と光彩とを与える。委員会の主な目的はこれによって

人々が喜んで定員会に属するようにすることであること。

四副会長の一人は「事実調査委員会」を管理し、これによって他の二人の委員の努力をたえず測定し価値を検討する役をつとめること。

六会長会だけで処理することは、自分ひとりで決定をする方が(他人の意見を聞いて決定をするよりも)楽であると同様に楽であるが、このような決定のやり方はだれのためにもならないこと。

それならば戦いに勝利を得るには、何が最もよい作戦行動であるか。彼らが再び戦いに参加する前に彼らは次のことを考えるであろう。

(一) 各委員会の定員会プログラムといろいろな活動とは、「福音の精神」に乏しく、悪い習慣をもち、希望を待とうと思わない人が、前以て改心をしなくても働らきをするように招かれることのできる「唯一の場」である。このような人は委員会の一人としてただちにプロジェクトにもとずいて働きに行くことができる。このような人は、その態度、習慣、行いがよくないので普通ほかの地位を考えることを考慮されていない

い。

(二)人を働かせるには、働らくようにたのむかまたは勧誘しなくてはならない。これは教会の根本原則である。人はたのまれても応じないかも知れない、しかしたのまれてなければ応じることができない。その人がたのまれてもことわるならば、くり返したのむことがもっと切実に必要となる（このやり方には多くの方法があるから接近の仕方を変えること）。

(三)会員には、働らきをするかしないか、または割当てに応ずるか応じないかを自分できめさせなくてはならない。もしも会長が、この人はたのまれても聞き入れないと考えてその人にたのまないならば、会長はその人から決定の権利をうばうことになる。

その人が何べんことわってもかまわない、（あきらめてはならない）、今度たのまれたら頼みに応じようと思っているかも知れないからである。

その人にはくり返したのまなくてはならない。ことわったための重荷はその人が負うにちがいないからである。もしも会長がこの人はだめだときめたなら、会長はその人が働らくさまたげをすることになる

う。

(四)もしも会長の役員が活潑な会員だけに働かせるプロジェクトを計画するのに時を費やし、活潑な会員だけを働かせるならば、会長の役員は不活潑な会員たちと共に働らく時がないにちがいない。

定員会の目的は、定員会の会員の活動と兄弟愛を増すことである。もしもある一部の会員が不活潑であるなら、不活潑な会員も働らけるようにプログラムをきめるべきである。

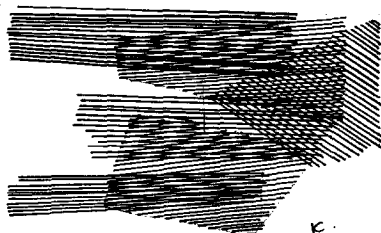
(五)もしも会長が毎週わずかな時間しか利用できないなら、その時間は不活潑な会員のために使うべきである。活潑な会員はいつもワード部（もしくは支部）の中でいそがしく活動している。

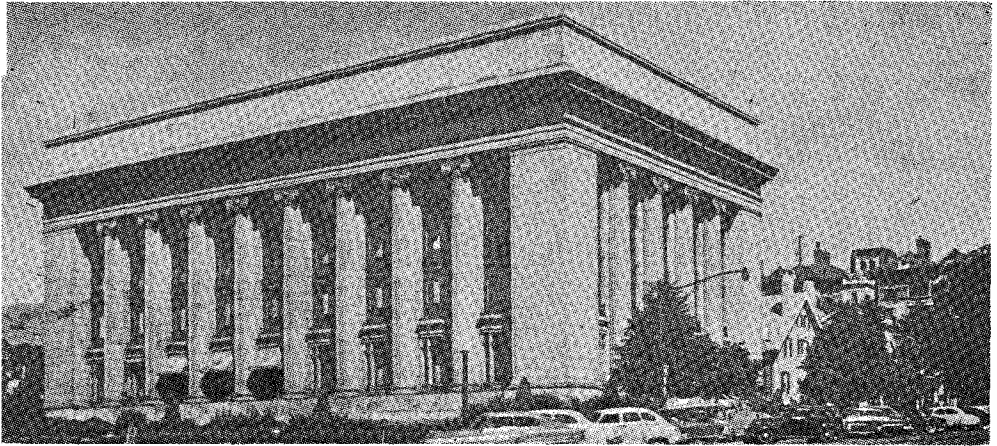
(六)電話ばかりにたよっていたら、ほとんどたしかにあなたの努力はむだになってしまふ。割当てをするには顔と顔と相對して行なわなくてはならない。

(七)兄弟愛の効果をを得るには共に働らき共に遊ばなくてはならない。

仕事をするには少くとも二人でするべきである。また小委員会をつくるにも少くとも二人でつくるべきである。一人では委員

会にならない。





## 末日聖徒イエス・キリスト教会歴史料

41

### 第三部 オハイオおよびミズーリ時代

#### 第二十四章 ミズーリにおける難局――

##### ボッグス知事の「撲滅令」

(千八百三十八年)

十八、アチソンの偽わりの報告。 さきに正義の精神と公明正大の態度を示したことのあるデビッド・R・アチソン將軍さえ、当時その地方に広まっていたいつわりの精神に負けた。そして、クルーケット河の戦闘のあと、千八百三十八年十月二十八日附で、偽わりの報告をあゝの悪魔サムエル・D・ルカスと連名でボッグス知事に送った。それは次の通りである。

「拝啓。モルモン教徒がさきに無法な行動を起して以来内乱は避け難くなりました。モルモン教徒は国法を無視し公然たる反乱に出て居ります。小生等は現在彼等の行動を阻止するために武装した兵員約二千を所有して居りますが、目下総司令官の居られることが絶対に必要と考えられます。貴官におかれましては、できるだけ速やかに戦いの中心地に来られるよう催促申し上げる次第であります。敬具。

軍政府第三師団 デビッド・R・アチソン  
軍政府第四師団 サムエル・D・ルカス

ボッグス知事閣下

二人とも偽であるとは明らかに知っているこのような文書に、アチソン將軍がルカスと連名で署名をすることは驚き入ったことである。しかし善人は時々負けることがある。アチソン將軍は、暴民の攻撃

に対して自己と自己の権利を防禦するだけであつた聖徒らに反対する統一された努力の圧力に反抗することは明らかにできなかった。それでも、弱体である上に事実上無防禦の聖徒らが、このような侵害に抗することは重大なる罪であるように思われた。このような侵害に抗することは（反対派によれば）内乱という状態を起す罪であるからである。

このように暴民の精神に屈したために、アチソン將軍は良心に責められたにちがいない。後になって將軍は、聖徒たちに公明正大な精神を示したかどによって、知事によって「將軍の座から下ろされ」その指揮の権を解かれたからである。

十九、クラーク將軍に送つたボッグス知事の命令。千八百三十八年十月二十五日、ボッグス知事はジョン・B・クラーク將軍に命令を出して、デビース郡の住民がその所有の財産を回復するに足る軍隊をつれと命じた。その理由とするところは「彼らモルモン教徒は前記郡内のガラテンの町とミルポートの町とを灰燼に帰せしめた。この中ガラテンは郡内の中心地であつて官庁やすべての公共の文書はその町に在る。そして、現在その郡内には一人の文官も居ない」ことであると知事は言つた。そして、これら二つの町でまだ苦しめられていなかった人々を「回復する」ために、すでに武装している人々につけ加えてさらに二千人の兵をつれと命じた。

二十、「撲滅令」。ボッグス知事はさきのようにクラーク將軍にあてて兵をつる第一の命令を出したが、クルーケット河の戦いの報告を耳にするや翌日さらに別の命令を出した。知事はモルモン教徒が「どこまでも戦かう」つもりであることを知ると、その心を大いに變えて、彼の恥すべき「撲滅令」を出したのである。これこそ

ミズーリ州の紋章を最大に汚したものであつた。このような命令を出すことを、暴徒の仲間や下級官吏たちさえも示唆していたことは事実であるが、何ら悪事を働らいたことのない二千人の無防禦の市民をミズーリ州から根絶せよもしくは追いはらえという命令を、自分のもっている大きな地位の権限をもつて州の民軍に出したということ、しかも何らの挑発も受けず正当な調査もせずに出したことはいつまでも、ミズーリ州知事であるリルバーン・W・ボッグスの責任である。この恥すべき不正な命令は冬の真最中に執行されるはずであつた。その時には、何のともないかわよい婦女子や罪のない幼な子たちは、嚴寒にさらされて死ぬほかにはなかつたにちがいない。クラーク將軍に与えたボッグス知事の「モルモン教徒撲滅令」は次の通りである。

「拝啓。私は今朝貴官に対し、貴官の管内で四百人の兵をつるよう命令を出したが、その後私の助力者であるアモス・リース殿およびワイリー・C・ウイリヤムス殿から最も戦慄すべき報告を受取つた。これによって事態の様相は全く一変し、モルモン教徒が國法を公然と無視してこの州の人民に公然と戦いをしかける態度であることがはっきりしている。従つて、貴官は作戦行動を急ぎ、出来得るかぎり速やかにレイ郡のリッチモンドに到着するように努力されたい。もしも公衆の利益のために必要ならば、モルモン教徒を敵として取りあつかひ本州より根絶することごとく追ひ払わなくてはならない。モルモン教徒の無法な行動は筆紙に尽し難い。貴官が兵力を増強した時には、貴官が必要であると考えるところまでする権限を授ける。私はちやうど、今、マリオン郡のワロック少將に命令を出して、五百人の兵をつらうてデビース郡の北部まで進ま

せ、そこでクレイ郡のドニファン將軍の隊と合同せよと言つたところである。ドニファン將軍はモルモン教徒が北方へ退却するのを阻止するため、五百人の兵を率いて同地点へ進軍せよとの命令を受けている。彼らは急使によつて、貴官と連絡せよと命ぜられていた。されば、貴官もまた必要ならば彼らに貴官の意志を伝えたい。従つて、最初に命令した如く、デビース郡の市民をその住家に再び帰すために進軍するかわりに直ちにリッチモンドに赴き、モルモン教徒に対する作戦行動に移らねえ。レイ郡の准將パークスは、揮下の旅団に属する五百の兵をしていつでもリッチモンドに於て貴官に加わせるよう命を受けている。全軍は貴官の指揮下に入る。

総司令官 エル・ダブルユ・ボッグス知事  
クラーク將軍閣下

## 第二十五章 聖徒、迫害を受ける

(千八百三十八年)

一、クラーク將軍は適格者。ジョン・B・クラーク將軍はジャクソン郡の住民であつた。サムエル・D・ルカス將軍も同じくジャクソン郡出身であつた。二人とも、千八百三十三年にモルモン教徒をジャクソン郡から追い出すために力を借した。リルバーン・W・ボッグス知事もまたジャクソン郡の出身であつて、モルモン教徒を追い払うときに助力をした一人である。その当時ボッグスは州の副知事であつて、秘密のうちにその仕事をやつた。この三人はモルモン教徒を不倶戴天の敵として嫌つていた。クラーク將軍は千八百三十三年にはまだ州民軍の幹部將校ではなかつたが、ボッグスは前からの経験によつて、彼の卑れつな仕事を遂行する人間をよく知つて

いた。数人の將軍はモルモン教徒が嫌いであつたとは言へ、ボッグス知事の残忍な命令を執行するため必要な水準に達するまで自分の人格をおとすことのできる者はわずかであつた。ボッグス知事から指揮の権を受けたクラークと、クラークを助けたルカスとは「撲滅令」を執行するのに最も適していた二人であつた。

二、ハウンスミルにおける大虐殺。当時その地方には、どんな水準にまでも人格をおとすことのできる多数の下士官と数人の牧師が居た。もしもモルモン教徒をいけにえにしてもよかつたなら、人間を虐殺することは彼らにとつて一つのレクリエーションにすぎなかつた。このような人間が州民兵を率いるウイリヤム・O・ジェニングス大佐であり、今一人はジェニングスの部下であつたネヘミヤ・コムストック大尉であつた。これらの「勇敢な」人たちは、自分たちと同様の性格をもつた軍隊（彼らはすべて州の軍隊から来た者たちであつた）を引きつれて、千八百三十三年十月の末、ファウエストの真東約十二マイルのシヨール・クリークにあるハウンスミルの聖徒の小部落の近くに集つた。そして十月の二十八日（日曜日）にジェニングスはその小さな部落に近づいて平和談判を申しこんだ。そこに居住して自分の稼業にだけ精を出していた教会員たちは、平和とは何事であるか、どうして平和談判をしなくてはならぬのかさっぱりわけがわからなかつた。しかしながら、聖徒たちはそのころ北部ミズーリ全体にわたつていゝ事象を承知していたので、喜んでこのような談判に入り、一方何の恐れも感ぜずその稼業をたづねていた。そのうちに、アシユレー大佐がジェニングス大佐にボッグス知事のモルモン教徒「撲滅令」を伝えたので、ジェニングスとコムストックの二人は約二百四十人に及ぶその兵力を集め、た

だちにハウンスミルに向けて出発した。

千八百三十八年十月二十九日(月曜日)は平和のうちに静かに暮れていった。あくる十月三十日は晴れて快適な小春日よりであった。その日の午後、聖徒たちは毎日の稼業に精を出して男たちは畑や店で働らき、女たちは家庭の仕事に従事し、子供たちはクリークの土手で遊んでいた。ところが突如としてジェニングスとその部下の兵が全速力で殺到して開拓地を馬蹄にかけた。デビッド・エヴァンスは彼らが悪意を以て迫って来たのを知って、平和のしるしに両手をあげたが、彼らはかえり見もしなかった。彼らは進軍をつずけて火を放ち始めた。襲われた人々は逃げ所を求めたが敵の手からのがれようとして逃げ走った。中には家の近くの茂みの中へ逃げこんで敵からのがれた者もあったが、逃げるひまもなく自分の身を守る良いすべもなかったのかじ屋の工場へ急いで逃げこんだ数人の男と少年たちがあった。ところがその工場をつくっていた丸太と丸太の間に大きなすき間があったので、そこに居た悪魔どもには家の中に居るぎせい者たちがよく見えた。そこで悪魔どもはその工場をとりまき、そのすき間めがけて致命的の効果を与える一斉射撃をくり返した。数人の者は暴徒のうちこむ銃丸の雨の中をかいくぐってとび出し、森の茂みへ逃げこんだ者もあったが、のこりの者はうたれた。メアリ・ステッドウエル嬢は逃げる途中に頭をうたれて気を失なったが、丸太にのめってその下側に倒れたままで居たために命を助かった。破壊の仕事が終わってからしらべてみると、二十発以上の小銃弾が丸太の中にうちこまれていた。しかし、殺人者たちは主として男たちを探して大いいたの女は逃げるに任せていた。

工場の外側でできるだけの死刑の執行を完了すると、悪漢どもは

扉を押しあけて彼らの血なまぐさい仕事を片つけた。そこで演じられたおそるべき場面はこの上もない残忍なものであった。その事はミズーリ州「カルドウエル郡史」の中でこの攻撃がやむを得なかったものとして誌してあるが、それはこのような歴史記者が用いることのできる弁解である。それにもかかわらず、これら州民軍の兵たちの行なつた悪魔の如き行為は一部分次のように述べられている。

「トマス・マックブライドは独立戦争の老兵であった。彼は負傷して動くことができずに倒れていたが、彼の銃は彼の側にあつた。そこへロジャーズという名の民兵がやってきてその銃をよこせと言つた。それでマックブライドが「とれ」というと、ロジャーズはその銃をとりあげて見て銃に弾丸がこめてあるのを知るや、弾丸を故意にその老兵の胸へうちこんだ。それから彼は粗製な剣もしくは草刈用の刀でその老兵の体を切り刻んで、ついにぎよつとするほどずつたずたにしてしまった。リビングストン郡出身のウイリヤム・レイノルツという男は、十才になる少年サルディアス・スマスを殺害した。この少年はかじ屋の工場へ逃げこんで、身を守るためにふいごの下へはいこんでいた。その残忍な民兵は工場へ入つてくると、ちぢこまってふるえている少年を見つけ、降参せよとも言わずに彼をめぐめて発砲し殺してしまつた。この男はその少年がどんなに苦しがつて死んだかを悪魔のように喜びながらくわしく話すと、自分がたつた十才になる少年を殺したことを「しらみの卵をほっておけばしらみになる、こんな奴を生かしておくともルモンになるからなあ」と言つて、自己の人間とも思えない野蛮な行為を正当化した。」

その時殺された人々の名前は次の通りである。すなわち、トマス・マックブライド、リーヴァイ・N・メリク、エライヤス・ペナ

一、ジョサイヤ・フラー、ベンジャミン・ルイス、アレキサンダー・キヤメル、ワールン・スミス、ジョージ・S・リチャーズ、ウイリヤム・ナピール、オースチン・ハマー、シメオン・コックス、ハイラム・アボット、ジョン・ヨーク、ジョン・リー、ジョン・バイヤース、サルディヤス・スミスおよびチャールス・メリクであるが、この中の数人はほんの子供であった。このほか多くの者は重い傷を負ったが命を全うしてようやく逃れた。その中にアルマ・スミスという少年が居たが、彼は臀部の肉を銃丸でむしり取られながら逃げおおせた。彼は銃丸を受けて倒れたが、おちついて完全に息を殺していたので悪魔どもは彼が死んだものと思っていた。アルマは後に、祈りと信仰によって奇蹟的にいやされた。

殺人者たちはこの恐ろしい仕事を終ると家々や、馬車やテントから略奪し始めたので、品物を取られた寡婦や子供たちは生活の必需品を何一つ持たずに逃げた。悪魔どもは、殺された者が身につけていた物さえはぎとり、悪魔のように喜び叫びながら、またその血なまぐさい行ないを最大の名誉と賞讃を受けるぬうちのある勇氣のある行為であるかのように誇りながら、彼らのふんどり品を持ち去った。

三、暴徒である民兵の集合。ハウンスミルで大虐殺のあった当日、サムエル・D・ルカス將軍は二千の兵を指揮してファールウエストに到着した。このルカス將軍と共にドニファン、パークス、グラハム、ウイルソン等の准将も到着したが、このウイルソンという男はルカスと同じ悪者であった。クラーク將軍は、ボッグス知事の「撲滅令」を受けて約一千人の兵員と共に強行軍をしてチャリントンに着いていた。

その日の夕方、各軍隊がファールウエストに接近したとき、彼らはファールウエスト市から一マイルほど離れたところで二列縦隊をつくった。そして軍使に白旗（休戦のしるし）を持たせて市中へつかわした。この軍使たちはモレー大尉そのほか二・三の人々と共に面会したが、これらの人々はこのような大軍が集結したのは一体何の意味であるか知りたかった。モルモン教徒はそのときまだボッグス知事の「撲滅令」のを知っていたからである。しかし、その軍隊が知事の命を受けてモルモン教徒を根絶やしにしファールウエストの市を焼き払うために来た軍隊であると言われて恐ろしさに戦慄した。この軍使たちはファールウエストに居る三人の住民、すなわちモルモン教徒でないアダム・ライターとモルモン教徒であったが今は信仰を失なっているジョン・クレミントンとその妻の身柄をひきわたせと要求した。この三人があらわれたとき、軍使は彼らにむかってただちにファールウエストを立ちのいて生命を全うせよ、彼らは保護を受けるにちがいないと言った。州民軍の決意はファールウエストを破壊してその住民を殺すことであった。しかし、三人とも口をそろえて、もしも市民が殺されることになるなら私たちは戻ってきて一しよに殺されると雄々しく言った。そこで軍使の士官たちは彼らの陣地へ戻った。

そこでチャールス・C・リッチがアチソンおよびドニファンの兩將軍と面会するために白旗をもって民軍の陣地へ派遣された。このドニファン將軍は、さきにモルモン教徒にいくらかの同情を示したところのある人であった。リッチは陣地へ向う途中ボガート大尉によって射撃されたが、それにかまわず進行をつづけてドニファン將軍と面会することを許された。しかし、ドニファン將軍は彼にむか

い、アチソン將軍はモルモン教徒に情深くありすぎるといふわけ  
知事の命によって二・三マイル後方に下げられたと言った。そこで  
リッチはドニファンに嘆願して、何とぞ閣下のおかげで少くとも明  
朝までファールウエストが攻撃されないようにねがいたいと言った。  
これに答えてドニファン將軍は、ボッグス知事はすでにモルモン教  
徒「撲滅令」を發布したが、その命令はまだここに届いていない。  
それであるから、その命令が届くまでは聖徒に攻撃を加えることは  
ないであろう、しかしながら、コルネリウム・ギリヤムの隊の行動  
は受けあえない、その隊はたつた今到着したばかりでインディアン  
のように顔を塗り飾りをつけ、その司令官は自ら「デラウエヤの酋  
長」と呼んでいると言った。これらの野蛮人どもは、一晚中おそろ  
しいわめき声をあげたり、そのほかの妨害を行なつて過した。

チャールス・C・リッチがファールウエストに戻つて報告をしたと  
き、ファールウエストの指揮官ジョージ・M・ヒンクル大佐は暴徒で  
ある州兵に今一人軍使を送つて聖徒の命乞いをさせた。この軍使は  
満足な回答を得ずに帰つて来て次のように報告をした。すなわち彼  
は、数人の教員がかの軍隊の兵士たちにとらえられたが、一人も  
抗議をすることを許されずにむごたらしく殺されたということを聞  
いたと言った。

その夜中、聖徒たちは彼らでできるような防禦工事を施こし、五  
人に一人以下の劣勢であるが、全力を尽して最後まで戦かうといふ  
おそろしい決意をして戦いの準備をした。敵方には一時間毎に新  
手が加わつて来た。これらの新事に混じつて、ジェニングス大尉とそ  
の隊は、ハウンスミルの「大勝利」を得てから新しく加わつたので  
あつた。一方、聖徒たちは主なる神におごそかな祈願をこめて心配

な一夜を過した。女たちはわずかであるが持ち運びのできるような  
品物を手に持つて、機会があつたら逃げ出す用意をしていた。  
その晩のうちに、ライマン・ワイトが少数の兵力とともにアダム・  
オンダイ・アーマンからやつてきて、首尾よくファールウエストへ入  
つた。

四、ファールウエストの包囲。三十一日の早朝、ヒンクル大佐は  
もう一人の軍使をドニファン將軍のもとへ派遣した。その軍使は戻  
つてきて、ボッグス知事の命令はすでに到着しルカスはその命令を  
実行しようとしているとドニファン將軍は言つたと報告した。そし  
て「もしもルカスがその命令に従うなら、彼は永遠の罪に落ちる  
でしょうが、ルカスはやろうと思えば自分の好きなようにやれるの  
です」と報告した。

ファールウエストを囲んだ軍隊は、何人も市中に入入りすることを  
許さなかつた。市中に入入りしようとする者は射撃された。麦畑は  
荒らされ、牛馬、羊、豚などは暴徒である州民軍の兵たちによつて  
勝手に屠殺された。







た。日坂光二兄弟による魔法手品によって、おもしろいカステラが飛び出し、見ていた兄弟姉妹がそろって食べるのが出来ました。家へおみやげに貰って帰ろうとして一箱注文した兄弟もあつたとかハッハッ。又支部長会による喜劇、扶助協会の記念撮影ゲーム、宣教師による外科手術のシルエット、実に愉快な一時でした。

#### ○宣教師移動

チャペル長老は東京北支部へヒルトン長老は東京中央支部へ又ブラウン長老は普天間支部へおかわりになりましたのでハウクリ長老フアスター長老がアメリカから又パトロン長老は東京南支部からこられました。

白木守記

### 東京東支部

いよいよ一九六三年最後のおたよりです。今月はクリスマス月だけにどちらの支部でもいそがしくお越しの事と存じます。

十月以来の懸案だった西支部と共同主催のダンスパーティーも十六日夜リキスポーツパレスで好評裡に終る事が出来ました。お世話になった西支部の方々、又東支部で責任に当られた土田支部長には特に感謝の意を誌上をかりて表したいと存じます。最初いろいろとあやぶまれましたが、どうか赤字が出ない線にこぎつける事が出来た事は、今後この種の計画にあたって色々な意味でよい教訓となりました。

十九日はMIAのクリスマスパーティー。二

十一日は御近所の方をおまねきしてのクリスマス夕べで、スケジュールは順調に進み、夫々、準備に出演に、いそがしい思いをしたのも過ぎて見ればよい思い出です。東支部は今年からはじめて新しい教会堂でこれ等の行事を行うので、計画や準備に今後大きな参考になるような問題が外く、それ等を一つ一つ克服した事に意義を感じて居ります。

二十二日はクリスマス一番近い安息日なので、日曜学校の各分級、フェローシップングスクール等、共にクリスマスパーティーとした教課内容で大変勉強になりました。特にこの日当支部にとって嬉しかった事は、一年以上求道者の立場で先頭に立って努力して下さった、清水姉妹がお父様のお許しが下りてパプテスマをお受けになった事です。冷い冬霜の下に耐えた清水姉妹の証詞に、一同感激を新たに致しました。誌上をかりてかさねてお祝い申し上げます。これで又東支部は本当に活発な姉妹が一人ふえたわけです。

二十二日の悦びにひきかえて、二十三日は会員一同、唄姉妹の計報にびっくり致しました。同姉妹の召されるまでの強い信仰は御一家にも強い感銘を与へれるものと存じます。又お父様の御好意により、霊前で開催して、お通夜の集会を持つ事が出来ました事は、私共一同感謝に耐えません。御一家の祝福をお祈り申し上げます。

二十四日は、会員水入らずのディナーパーティーを開きました。計画準備された、北川姉妹他扶助協会の皆様に感謝致します。とても

楽しく、又静かむふんい気度で、特に参加された求道者の御夫妻の方も感銘を深くなさったようでした。

さしも多かつたクリスマススのスケジュールも全部終って、教会堂も外廻りは殆ど完成し、サーチライトを当てたタワーを中心とした夜景は、星空だけをバックにしてまるで夢のようです。この会堂を本当に自分達のものにする為、いよいよ一年のしめくりを支部長を中心にするべく総決算をして居ります。

来年は、地方面大会の会場にも予定されているとかで、だれかれとなくしっかりしなればと云う空気がみなぎって居ります。二十九日鈴木、村雲、岡三姉妹のパプテスマを無事終了し、いよいよ来年の飛躍への準備です。(フェローシップング委員記)

### 東京東支部

十一月の支部だよりを、お送り致します。早いものでもう一月たつてしまいました。前回のたよりにひきつづいて支部の教会堂の建築はますます快調に進められています。十一月二十四日の集会からは窓ガラスが入って、やっと屋内にもると云う感じが出て来ました。ガラス一枚にも大きな機能が与へられていることを皆つくづくと感じさせて頂きました。

二十三日は休日を利用して、はたらき会を開き多数男子会員が参加致しました。四十物姉妹他扶助協会の昼食の奉仕も味量共によい出来具合で大変好評でした。壁、天井、間仕切り等も大体終って、内部は床とこまごまし

## より支部だ

た処を余すのみとなりました。外も瘠材のたづけも終り、塀にヒマラヤ杉を植えましたから見送るように落着いて参りました。後は舗道作り、整地等が残って居ります。労働宣教師の古波兄弟、田畑兄弟、武内兄弟も毎日曜の集会に出席して居りますので、和氣あいあいと総てが進行して居ります。只會員一同余暇を発見する事がむずかしく御手伝いする時間の少い事をお詫び申し上げます。

長らくお世話になりましたスミス長老が横浜支部へ、ポキバラ長老が阿倍野支部へ十一月二十三日転勤されました。東支部にこの両宣教師のなした大きな愛と力とは、これからは評価出来ないもので御座います。これからはファイア・サイドにポキバラ長老のハワイ民謡が開けなくなるのも一寸淋しさを感じます。御面所の御活躍を御祈り致します。後任宣教師はワシントン州タママからゲーリング長老、イリノイ州シカゴからジョンストン長老が新任されました。

八月にカリフォルニア州リヴァーサイドに留学された益田姉妹から神殿で死者のパプテスマを受けられたと云うたよりを根岸姉妹が受けとられました。益田姉妹の御多幸を支部員一同御祈り致して居ります。

Y.M.M.I.A 岩永兄弟、Y.W 近藤姉妹がそれぞれ会長となりました。M.I.A は更に活発な動きを始めました。支部発展の中核となって居りますので皆楽しみにして居ります。

アロン神権定員会の執事定員会も正式に発足し、佐藤竜猪兄弟指導のもとに秋葉兄弟が

会長としての責任を遂行して居ります。集会に於ける求導者の受け入れに、会堂の掃除に儀式の準備に組織立った活動が開始されました。

今月は佐々木、中田、原、山口の四兄弟、柴、酒井、宮沢三姉妹が會員となられました。いずれも熱心な兄弟姉妹で特に聖典の研究心が旺盛な方ですので先輩會員にも一層のはげみとなって居ります。

フェローシップング委員会も十二月一日スクール開設を目標に笹木姉妹、古川兄弟が委員として張り切って準備をなされています。一度開設したらずっと続けて行かなければいけないので準備は大変ですが、やり甲斐のある仕事の様です。必ずや成功するものと確信して居ります。

来月はクリスマスを手控えて各組織が緊密に渡辺支部長の元に一丸となって張切って居ります。では又来月。

(フェローシップング委員記)

## 山形支部

十九日クリスマスマスパーティ  
広い会堂も若人や會員のお母さん達や近所の人でいっぱい(いつもこれだけ多くの人々が集まってくれたらいいなあ)

なんといつても今日の最大の呼物は演劇クラス。夕鶴の発表です。山形支部にすてきな演劇クラスが出来ました。そしてその演技力の確かさ、私たち會員は待ってたんです。M.I.A の活動に活発な演劇クラスの出るのを三十一日子供たちのクリスマスパーティ  
支部長バートン長老のサンタのおじさんは

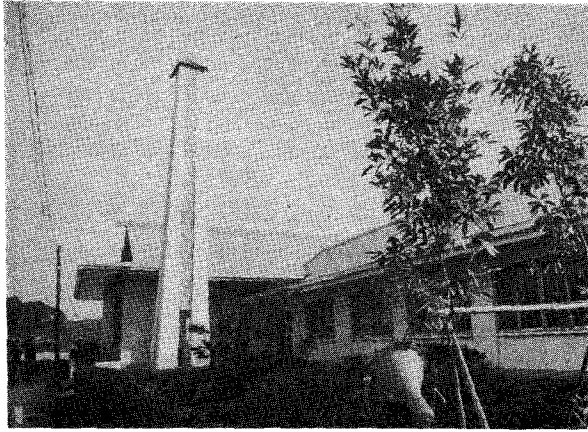
大きな袋ならぬ大きな竹かごを背にして押入れの中から表われました。「すてきなプレゼント早くちょうだい」  
二十二日クリスマスのため特別日曜学校  
伝道部長のメッセージを聞きクリスマス  
正しい意味を学びました。そして天国とは?  
という疑問に「テストとパチンコの無い所」  
なんていった兄弟がいたっけ。  
二十四日キャロリング  
聖るな夜私達はローソクを灯し賛美歌で各病院を訪問しこのすばらしい日を分かち合いました。

二十八日養護施設訪問してもちつきパーティー  
鈴木吾郎長老マサ姉妹の息の合ったコンビでベッツタンベッツタンマサ姉妹の頭に。大事なもち。がくつついてしまいました。みんなひやかされて上がってしまったんでしょか。又、長老たちのもちつきも皆さんにぜひ見せなかつたわ傑作続出でした。うまくつけたかうって? それに食べた人に聞いてもらわな

と分らないムズカシイ疑問です。  
今年もこの様に、すばらしい計画を立ててそして協力してくれた多くの兄弟姉妹たちに心から感謝します。山形は皆さんの支部から見ればまだまだ小さい存在でしよが、着実に一歩一歩熱心な神権者によってがっちり基礎と土台を基きつつあります。そしていつも私たち山形支部の會員たちのはげみとなつてい

るのは秋田県湯沢市にいる榎木姉妹です。貴女のような秋田にも早くモルモン教会が出来たらすばらしいですね。三十八年も良い年であつた様に今年もなお良い年を向える事が出来る様祈つてます。

## 東京北支部



## 支部だより

お元氣ですか？ 今月はまず写真を見ても  
りたい。どうだい大分きれいになったろ  
う。前よりは木も植えられたりしてね。新し  
い教会堂を始めて使ったのは去年の十二月十  
九日、MIAの時。ちようどクリスマス・パ  
ーティーで、新MIA会長の織本兄弟の仕事  
始めたのだ。そうそうここで忘れるところだ

った。十二月の支部大会で支部の役員が全部  
新しくなり、支部長は細野兄弟。以下支部長  
会のメンバーは神崎兄弟、森村兄弟、中野兄  
弟、斉藤兄弟、別に支部の役員を知らせたと  
ころでどうということないので、これ以上書  
かないけれど、支部長会も大分若くなった。  
この効力が早速現われてね、物事が非常にス  
ピーディーに進んで、このエネルギーな  
状態が続けば、北支部も、もっと前進する  
と思う。若くなったといえば、MIAの方は若  
がえり過ぎたくらいだ。まず会長さんが織本  
兄弟ときているだろう。知ってのとおり、口  
だけは達者な高校生、副会長まで井上兄弟と  
いう高校二年生、全く若さがいっぱいとい  
うところさ。口だけは達者というけれど、ど  
うも北支部のMIAの会長の伝統らしいよ。そ  
ういう点は、(参考のために最近の歴代会長  
をあげると、前会長は神崎武二郎兄弟、元会  
長森村兄弟、その前に神崎良太郎兄弟——ど  
うです、わかるだろう、こういう風なんだか  
ら——)

十二月二十二日は日曜日に始めて、新しい  
教会堂を使った。もう武蔵野ドレメにはい  
けないと思うと、ちょっとさびしい感じもした  
暖房がなくて寒かったけど、みんな喜びに  
あふれた顔をしていたよ。

十二月二十四日は近所の人へ教会堂の披露  
も兼ねて、支部長会主催のクリスマス・パー  
ティー、まあ、成功した方だろうな。ちよっ  
と子供が多すぎたけれど。パーティーのプロ  
グラムの中で印象に残ったのは勤労奉仕宣教

師の紹介だった。あの日は高橋兄弟の司会だ  
ったけれど(無責任的司会ぶりだったけど、案  
外と評判よかったらしいよ)彼が一人一人宣  
教師の名を呼ぶと、すくっと「のっそりと  
もあった)立上る。司会者が各人の特徴、性  
格などを紹介するというわけ。一人立つごと  
くにワァーと拍手がわくんだ。それも会員でな  
い人の方が多い会場で。司会の「この建物は  
これらの人々の手で全部作った」という説明  
で、驚きの目で見はっていったのは忘れられな  
いシーンだった。それともう一つ。(これは  
忘れてもいいんだけど、忘れようとしても忘  
られない)演劇があった。次郎かがし。と  
いうので、出演メンバーが、酒井兄弟、岡安  
姉妹、森村兄弟、井上兄弟、斉藤兄弟とい  
う調子で、特に森さんは、始めての演劇にして  
は予想外の出来だって評判だったよ。みんな  
うまかった。

一月に入って、教会堂の使用回数が増える  
ごとに、段々馴れてはきたけれど、まだ殺風  
景な感じがするね。とにかく集会を開く度  
になにか必要なものが出てくるんだから。それ  
に掃除が大変なんだ。十五日の成人の日は、  
掃除パーティーで三十人位集まったろうか。  
またにわともあれ、これから一・二カ月、落  
着くまでは大変だと思うよ。そしてその大変  
さが、我々の進歩への一つの条件さ。

それから、三月頃になったら、教会堂へ来  
るといい。江古田二丁目の停留所は、江原中  
野通りとなったから、友達を北支部へ紹介す  
る時、そのようにいっておいで下さい。  
二月は一番寒いからカゼに気を付けて。じ  
ゃ又来月。

伝道本部だより

パプテスマ

一九六三年十月

湯浅敏子	山本ヨシ子	吉田マチ子	山千代郁子	武中安子	大西敏子	松岡雄二	北川博継	岩島智子	石井弘美	堀俊夫	広田真知子	福田英二	朴泰継	浅野多喜子	青野富己子	赤尾昭和	阿倍野						
山田喜文	竹田克明	立野忠朗	森川哲朗	佐本敏幸	岩田順子	伊藤衣子	広島康子	山上初美	群馬馬	大田京子	松崎和則	伊奈淳子	福岡	白井昭子	加門テイ子	旭川							
宮本律子	松原和子	山本美津子	木村洋子	平宇唯一	西の宮美枝子	加藤美瑞子	片桐瑞子	新瀉美枝子	山本美枝子	旗町秀子	須山睦子	松森美智子	小宮山敬子	松本保男	山田保男	斎藤誠	萩原幸一	甲府					
藤崎尚	藤永重	三の宮	葉師恭一	西山幸子	中山幸子	藤井恵子	青山篤三	小樽俊明	西山俊明	森友造	水之繁	近藤忠司	岡山昭恵	野田昭恵	祐伯契	渡壁誠英	佐野一	岩佐環	石原榮二	岡町	清水良祐	新美千美子	森川嘉男
堂前俊雄	名取豊	仙台	山下文彦	大西喜弘	木下宿子	鎌田子	板倉紀子	清水伸哉	札幌岳子	吉田義満	和又満	竹口誠二	大川邦利	小倉富一郎	山田重治	土崎充晴	長田	松本迪子	木谷敬子	河本元福	葛西征二	藤田利久	上辺正利
坪内英昭	田浦つゆみ	田村栄子	島田玉栄	坂口武誠	呉橋一美智子	鏡原浩平	出原則雄	藤村逸郎	東京南	山口克介	柴口鈴代	佐々木英行	酒井あけみ	中田喜之	宮沢文代	若井佳子	新井槍吉	東京中央	富田美代子	佐藤文子	佐藤隆保	井川洋	
									金城節子	川満信夫	外間敬	那覇	斎藤勇	岡崎薫	小林時夫	上条栄子	横浜	秋葉時子	山形	八木桂子	横田和助		

神 権

阿倍野	イヅミタニ	イワオ	(長)	松本	松本	タダシ	(祭)	タマキ	ケンゾウ	(執)	ウチヤマ	ハルユキ	(ク)		
オグラ	クニヤス	(ク)		名古屋	名古屋	トモジ	(執)	三の宮	ニシキ	タカハル	(長)	柳井	アキラ	(長)	
ツノヤマ	テロオ	(ク)		カイヤ	トモジ	ヒデアキ	(ク)	札幌	アカマ	ヒロシ	(教)	横浜	イシカワ	タカシ	(教)
旭川	ツギミ	(教)		オムロ	ケンジ	ヒサカ	(教)	マニエ	カズオ	(ク)		クド	カツオ	(教)	
ヤマダ	マサミ	(長)		ヒサカ	コズル	コズル	(長)	カワゲチ	レツオ	(ク)		那覇	カツオ	(教)	
キザキ	マサミ	(長)		新漏	サカイ	ジュンイチ	(執)	カワツキ	ハルヨシ	(ク)		ヒガ	エイキチ	(執)	
福岡	オサム	(長)		サカイ	ジュンイチ	ジュンイチ	(執)	東京中央	コマツバラ	クニオミ	(長)	ヨシムラ	タダシ	(祭)	
ヤノ	オサム	(長)		西の宮	タカジヨウ	タクヤ	(長)	オハラ	ミツナガ	(ク)		ニシメ	タモツ	(教)	
イシカワ	オサム	(長)		岡町	イケ	シヨウジ	(長)	タカハシ	マサシ	(ク)					
群馬	ヤスナリ	(執)		イケ	シヨウジ	シノブ	(ク)	タカイ	ジュンイチ	(ク)					
イシムラ	シゲオ	(執)		クワタ	シノブ	クニオ	(ク)	タカママ	シユウジ	(ク)					
フジイ	シゲオ	(執)		マルカワ	クニオ	マサイチ	(ク)	オチアイ	カツミ	(執)					
広島	ヒサヨシ	(長)		トネ	マサイチ	カツアキ	(教)	ヤマダ	ヨシオ	(執)					
コガ	ヒサヨシ	(長)		マツモト	カツアキ	トシハル	(教)	東京東	ヨシヒロ	(執)					
ニイ	ヒデハル	(ク)		岡山	トシハル	シンイチ	(長)	フルカワ	ヤスオ	(教)					
金沢	ダイ	(長)		スヤマ	トシハル	ミツタカ	(長)	イシカワ	マサハル	(ク)					
エンドウ	マサノブ	(ク)		小樽	シンイチ	イサオ	(祭)	イワナガ	シゲオ	(ク)					
イシシロ	トオル	(ク)		クシオカ	シンイチ	ハルオ	(ク)	キグナ	ハルオ	(ク)					
タナカ	トオル	(ク)		ヤマダ	ミツタカ	イサオ	(祭)	ミヤギ	ハルオ	(ク)					
京都	シヨウジ	(長)		イケハタ	イサオ	タダシ	(長)	東京西	タダシ	(長)					
ツクダ	シヨウジ	(長)		タナカ	ミノスケ			ミウラ	タダシ	(長)					

# 「奇しきみわざ」出版祝賀会

御国建設に励んでおられる聖徒には、希望

にあふれた一九六四年を迎えられたことでし

よう。その新春早々五日、日曜学校翻訳委員

並びに「奇しきみわざ」の校正に助力をなさ

った兄弟姉妹が東京中央支部の一室に集り、

祝賀会を開きました。都合があつて、全員が

参加出来ませんでした。二年間にわたつて

「上・下巻」の翻訳および出版に寄与なさつ

た人々の苦勞話、テキストになるまで、また

この書物の問題点など、様々な事柄について

委員達の話し合いが活発になされました。この

速記を、聖徒の道、誌上に記載致しますので

聖徒において「奇しきみわざ」について幾ら

かでも理解していただき、翻訳者等の苦勞を

思い、充分な勉強の助けにしていだきたい

と思ひます。

出席者、A、上野道男、B、児玉栄治、C、  
神崎良太郎、D、小林幸司、E、向井良子

ントが少いですね。

B 全く同感。他のテキストからみると、

この本は校正が丁寧だと思ひます。

C 日曜学校翻訳委員の手で翻訳をして、そ

して書物にまとめたという成果は大きい

ですね。

A 分担して翻訳したという事はいいです

ね。

D 割当てられた箇處の原稿は部厚いもので

沢山あつたが、いざ活字になつてみたら

ほんのわずかな頁数になつてしまうもの

ですね。

C 「下巻」の方が訳しにくかつた。少し堅

い文章になつてしまつた。ある項目を訳

すために、他の資料(信仰箇條の研究)

を読み直してみたり、またある時は、他

の宗派の牧師を尋ねたこともあつた。

D 「完成への道」「信仰箇條の研究」など

とは、表現の仕方が違つているが……

A 「奇しきみわざ」はあくまで日曜学校の

テキストとして用いられるために、漢字

を少なくし、わかり易さ、読み易さとい

うことに重点をおいたため、文体はす

べて私のに統一させました。

A ところで詩の翻訳はいかがでしたか?

C 母に頼んだり、姉妹たちに尋ねてみたが

できないと断られた。

A 詩の翻譯というのはありえない。すなわ

ち原文の通り訳したのでは詩にならない

からで、「奇しきみわざ」の大部分の詩

は原文の意をくんで私が創作しました。

C しかし英語の力が強いだけでは、福音の

翻訳はできない。用語、単語の翻譯は勝

手にやれない。福音の知識があれば、訳

は簡易だ。

D 言葉の定義と使い方が、同じ語でも解釈

の異つているものがある。

A とにかく翻譯は英語の知識よりも日本語

の知識が大切であることがわかりまし

た。原文を読んでその意味が理解でき

ても、その適確な日本語が考え出せなくて

苦勞しました。小説なんかよく読んでい

A 原稿の回収に手間取つた。予定が七月ま

であったが、一番早く提出されたのが十月の初めであった。  
各翻者共、原稿の締切りには気にしていたことでしょう。

A 用語の説明、訳語の指示及び、用語の統一を前もって連絡しておけばよかった。

B 原語を日本語に書き変えるだけでなく、何度も校正を重ね、印刷に付され、装訂がなされて初めて書物となって発刊されるわけだ。

C 校正より翻訳の方が楽なのではないか？  
短期間で印刷にこぎつけた。校正を手伝った方々の努力が察せられます。

A 校正の際、数多くの助言をいただいた佐藤竜猪兄弟に大変感謝しております。  
D 合本の計画はありますか？ あつたらその時期は何年頃ですか？

A 二、三年後になりますが、その時は新訂版として、改訂をしたいですね。読者の意見を聞きましょう。

C 立派な書物が出版されたのですから、聖徒に熟読を願い、福音を学ぶ助けにしてもらいたいものです。

D 読者は翻訳者の苦勞を察して欲しいものです。翻訳の苦勞を味ってみないと、そ

B れはわからないかもしれませんが。  
翻訳だけでなく、とにかく書物が出版されるまでに携る人々の苦勞は大変なものですよ。

A 「奇しきみわざ」を出版するまでに関係した各人は、更に強い証を持ち得たことと思います。

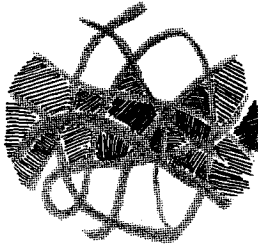
C 次の翻訳はどうですか？

A 今年は、翻訳の予定はありません。

C 今年も何かお手伝いをしたいですね。

A 書物が出版された時は何とも言えない嬉しさでした。皆さんに心からお礼を申し上げます。

B 出版された時は、ようやくと責任を果したという安心さと嬉しさを感じました。  
A では、本当にありがとうございます。  
(企画伝道部日曜学校会長)



出席者上段右から

児玉栄治

小林幸司

神崎良太郎

五十嵐(新潟)

上野道男

向井良子

# 読者だより



## 串岡信一

(小樽支部)

私にある日親友である増田君は(その日はちょうど日曜日)「笑うなよ。誰にも言うなよ」と前向きされて次の様に話してくれた。「僕教会へ行ってきたんだ、おかしいか」と。私はそくきに「いや何もおかしくない」と答えて言った。それから数日後彼につれられて教会に来る事になった。今から思うとその日はちょうどMIAのある木曜日であった。私はその日生まれて初めて教会という所に来たのである。でも私はその時以前にもこの教会に来ようと思っただけで残念ながら来る事が出来なかった。なぜならば町を歩いていてもらった。ちらしを見ないでポケットにしまってしまうのが常だったからだ。しかし親友によりこの教会に導かれたのであった。そして基礎的な福音を聞いて見ないかと非専任宣教師の盛姉妹より

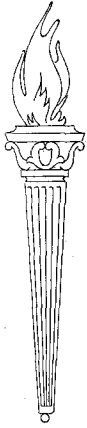
言われたので家庭集会を彼女と物江姉妹の二人により受ける事になった。はじめはあまりきょう味がなかったがレッスンが進むにつれてだんだんと面白くなって来た。しかし四回目のレッスンの時一寸つまづいた。第四課の智慧の言葉の所で酒、タバコ、コーヒ等を飲んではいけないという事である。たが私はけしこい神の存在を知る様になったのでその事をやめる事が出来た。おかげで以前よりもまして健康になり又、甘党になった。と言う事を神に感謝すると共に私の為に家庭集会を開いて下さった、盛姉妹と物江姉妹にして増田兄弟にも心から感謝しています。今回はあまり余白がないのでこの辺でペンを置きますが再びここに書く機会があったならばこの続きの様なものを書きたいと思えます。この事すべてをイエス・キリスト様の御名により綴りました。アーメン。

## 山田武雄

永遠に進歩することこそ末日聖徒の信仰の根本原則である。農夫が良質の品種の種子を播き、それに適切に肥料を施すならば、素晴らしい果実が実るに違いない。然し

これには肥沃な土質を必要とす。末日聖徒の信仰がいかにすばらしいものであろうと大きく耳なされるにしても「猫に小判」かもしれない。我等は大きく耳をもつし、きく心のある者である。然し折角聞いても悟らなければこれも無価値に等しい。サタンはいつも我等の身辺に漂っている。そして我等の心より信仰を奪おうとする。暫く生活に根を下さぬ浮草の如きものならば、現世の試煉に敗れて、教えから退き、而して教会を離れることとなる。信仰生活は茨の道なのである。現世の労苦に負けてはならん。財宝に眩惑されてはならん。快樂に麻痺されてはならん。永遠の真実の自由はここを乗り越えたもののみ与えられるものである。豊かなぶどうの一粒一粒の実は農夫の根気強い努力があつてこそである。そのように末日聖徒個々の人格の向上発展は豊かにその実を結ぶよう根気強く不断に探究の道を歩まねばならない。そのためは我々は日常教会の内外に在つて多くの経験をするよう幅広い生活を営むべきだ。人生は生きていく。創造されている。前進している。我々は信念だけでは目標に到達出来ない。行動を起す必要が生ずる。末日聖徒の信条とする神は体を持ち、考え、意志を働かせ、意図

し、そして人類にその御意を語ることのできるものです。神は体と感情と感覚のある御方である。神は力では無い。神は理想ではない。神は偶像ではない。神は原則ではない。神はそのように抽象的なものではない。無形なものでもない。従つて神と人類との間は常に連絡出来る。それ故人類は尊厳である。価値があり、自由があるのである。教えをうけるための必要条件先生より教えをうけるために、生徒は教えをうけたいと望み又求めねばならない。生徒が習いたいという望みももたず又何ら考えようとする気持ももっていないならば先生から何も習うことができない。生徒はある程度望みと用意と心に強い気持がないならば先生より学ぶことはできないと私は信じている。邪しまな心をもと、邪しまな行いをしていくな生徒に私は近づかないし又そのような生徒と共に交らない。あなたがたが謙遜で、誠実で、心が清く、真面目に私の心を知るために求め行なうれば、私はその人の望みを聞き届け、又その人に答える。刻苦勉励しなさい。徳を積みなさい。知識を確かなものにしなさい。節制のある生活をしなさい。忍耐の心を持つて生活しなさい。目上を敬い、つつしみ深しなさい。友人や他人を愛しなさい。(実の兄弟のように)



# 系図の道しるべ



親族・親等の関係早わかり

## ◇親族◇

親族の範囲

(民法七二五条) 1 六親等内の血族

2 配偶者

3 三親等内の姻族

血族……血縁関係のある自然血族と養父子

のような法定血族とがある。

姻族……配偶者の血族と血族の配偶者との

すべてをいう。

直系……親と子、祖父母と孫のように祖先

から直下する血族のこと。

傍系……兄弟姉妹、従兄弟姉妹のように同

じ始祖から分れた血族のこと。

尊族……自分より目上の血族姻族で、自分

や配偶者の父母、祖父母など

卑族……自分より目下の血族、姻族で子孫

甥、姪などをさす。

(注) 同一世代では尊卑はありません。

## ◇親等◇

親等の数え方(民法七二六条)

現在は世数親等制で血縁の遠近により世

数を数えます。直系は世数を数え、傍係

は共同始祖まで世数と、そこからその親

族迄の世数とを合計します。  
(注) 配偶者は互に親等がありません。

## 委員の手引き

個人ティーチングについて

この個人ティーチングは全委員の系図探求状態を調査し、誰れにどんな方法で助力すべきかを明瞭にすることにあります。

この記入用紙を委員は持って集会のあい間に問答してチェックします。

## 個人ティーチング

	氏名	日付	問	答	次回の見込み	備考
1						
2						
3						

## 説明

氏名 会員名を記す。日付 日付チェックした日付

問答 この記入方法は三つに別れています。(○, ×式)

①「自分の系図(家系)を調べたことがありますか。」

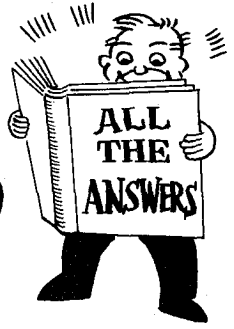
②「謄本をお持ちですか。」

③「系図のために郷里を訪れましたか。」

①, ②が×(No)の人は③を質問する必要がないと思います。

次回の見込 系図を強いることによつてなお系図嫌いをつくってしまいますので、そのような場合はチェックした方が良いでしょう。見込みがあれば○ なければ×。

# MIA Leader



## 教師養成レッスン

良く教え、指導する為の六つの基本的標準  
第六課 教師を養成すること

この要約した学習課程を通じて我々の焦点は、何時も生徒の上に結ばれていた。彼の性質や教える際の目的、目標に達し得る方法を考えてきた。エドウィン・マークハム作の次の詩の一節は私の云いたい点を能く表わしている。

心の企図を知るまでは  
眼は暗黒に閉ざされぬ

ひとくわだては

ちりとなりて散り去りぬ

あ、悪しきたくみのなす業は

おのがよき身をたつまでは

思いに思いをめぐらすも

最早、策するすべもなし

この詩の一片はまさに教師、自身になぞることが出来る。教師は生徒達の為ばかりではなく、自分自身の為に一生懸命努力しなければならぬ。教師は、芸術家のように、自分の仕事を鏡としなさい。彼の性格や個性は特に福音を教えたり、道徳教育の際には大切で

ある。今、あなた方や私の為に、我々の現在の成長過程を評価する手助けとなる幾つかの質問と話をしてみよう。

私は生徒ですか

私の読書の習慣はどんなものですか。過去六ヶ月間にどんな本を読んだでしょうか。私は福音を規則正しく、或いは系統的に勉強したでしょうか。それとも単に話を準備したり、レッスンを復習しただけでしょうか。聖典のうちのどれが親しみ易く、どの部分が未知であるか。私の書棚の状態はどうなっているだろうか。私の予算の何パーセントが肉体を飾る費用に比較して霊を養うのに使われているか。どここの教会の本を持っているか。そのうち私はどれを読み、どの書物が私の生活の一部となったのだろうか。私の物の考え方をかたち創ってくれた書物はどれだろうか。私はどのくらい有意義な講演会や素嗜しい演奏会、良い催し物を聞きにいくだろうか。私のレクリエーションとは何だろうか。私の心はそのうちのどれで涵養されるのだろうか。私は友人達とどんな話をするのだろうか。

か。此の世で一般に話されているものに三種  
あると云われている。

1 事物(例、天候、食べ物、衣服)

2 人間(例、ゴシップ)

3 考え

考えこそ会話の眞の肉であり、伝達の理想的な媒介なのである。精神はそれによってますます成長していく。他の人達との会話の中で彼等はどんな役を演じているだろうか。私は何時、熟慮するのだろうか。一人だけになって、祈り、考え、自分自身に語り掛ける為に、大好きな静かな場所でこっそり反省する時間を規則正しくもうけているだろうか。それとも、多くの現代っ子のように、自分自身を見失ってしまうような活動の渦に巻き込まれているだろうか。

私は読み、見、観察する自由を保ち続けているだろうか。私は教えたり、考えたりするのに必要な材料として、いろいろのカタログやファイル形式の教材を持っているだろうか。

### 私の価値は何だろうか

私の宝は何であろうか。「汝のたからのある所には、汝の心もあるべし。(マタイ伝6章21節)」この故に我なんじらに告ぐ、何を食

らい、何を飲まんと生命のことを思い煩い、何を着んと身体のことを思い煩うな。生命は糧に勝り、身体は衣に勝るならずや。……まづ神の国と神の義とを求めよ。」(マタイ伝6章)

私の人生はつまらない、うわべだけのうちに終ってしまうのだろうか。他の如何なるものよりも安楽と安全を求め望むのだろうか。

私もまた「溝を堀る力を得る為の食物を得る為に溝を堀る仕事をする」ような踏み車の上を歩むのだろうか。この考えは一般の労働に對する侮辱どころか、榮譽ある報酬の多いものである。然し「ひとはパンのみに生きるにあらず、金のみであらゆる物は買えず」ことを肝に銘じておこう。

私の人生に於ける終着は何であろうか。目



的に到着し得るだろうか。私の戒律と標準は  
何で、私にはつきりと解っているだろうか。  
私は仕事に公平であり、人々に憐れみを施し  
ているだろうか。私の根本の価値と行いは未  
日聖徒の信仰を深め育てていくのと一致して  
いるだろうか。(来月号に続く)

(佐藤要二訳)

### M I A の標準

M I A の標準は、強制を持って行われるも  
のではないが、正しい M I A の会員ならば、  
守って頂きたいものである。また、誰でもが  
守り得るやさしいものであって、決して、め  
んどろであったり、むづかしいものではな  
い。そして、M I A 会員にのぞまれている、  
それらの標準の一つ一つを良く考えてみると  
真に妥当な事柄ばかりであると思う。

最近、東京には二つの新しい教会堂が建ち  
その目にしみる様な白い壁が、そして、きれ  
いに見がかれた椅子の一つ一つが、いつま  
でも美しくある様にと誰もが願っている。

「教会堂の美しさは外見の美しさのみでは  
ない、そこに集う人々の心の美しさがあつて  
こそいつまでも、白い壁を保ち得るのだ。と  
多くの人達が説教をした。或る支部にあって  
は礼拝堂内の雑談を禁じ、社交場とならない

様に集会の十五分前にならないとドアのカギ  
は開けられない様にもなった。東京のこれら  
の新しい教会堂のみでなく、各支部のすべて  
の人々が、主のために集う人々が、いかに美  
しい会を集うかと言うことに思いをめぐらし  
ていることである。

M I A に集う若人の間にあつても、しかる  
べきではないだろうか。そこで M I A の標準  
についても、いまひとつ担い起こして頂け  
ないだろうか。

M I A の標準と言うものは、具体的に且つ  
細かいことにわたつても述べられている。し  
かし、まず、個人と集団との二つの立場から  
記されている一項を皆さんと一緒に読んでみ  
よう。

### M I A の標準 (個人として)

- (1) 神権を尊ぶこと。言葉と行いにより、  
教会の指導者を支持すること。
- (2) 知恵の言葉を守ること。すべて悪い行い  
を避け、聖なる教会に常に出席すること
- (3) 什分の一と断食費を納めること。
- (4) 聖餐式及びその他必要とされる集会に出  
席すること。自分の属する支部の堅実な  
会員たること。
- (5) 安息日を、礼拝日、休息の日及び福音を

もつと深く学ぶ日として覚えること。  
(6) 他の人の悪口を言わぬこと。うわさをせ  
ぬこと。

(7) 自己の正しい生活と言葉により、謙遜  
清潔及び純潔の重要性を教えること。  
(8) 謙遜にして、且つ適切な衣服を着用する  
こと。神殿に行ったことのある者は、そ  
こでなした神との聖約を尊ぶこと。

### M I A の標準 (団体として)

- (1) あらゆるすべての事に於て卓越し、優秀  
なることは、M I A の集会を特徴づける  
(2) 教会に関するあらゆる事柄は、すべて祈  
りによって始められ、祈りによって閉じ  
られるべきである。
- (3) いつ、どこに於ても、秩序と良き行いが  
必要である。
- (4) 出演者は、たとえ素人であっても、高い  
水準にあるものをのぞむべきである。
- (5) 役員はすべて集団で行う。プログラム、  
祭、演劇、音楽などの出しものを、もう  
一度調査し、言葉、動作、衣裳などに於  
て、人に不快な感じを与えるものがない  
かどうか、確かめてみる。
- (6) 如何なる活動も、参加者を困らせたり、  
また、馬鹿々々しいという様な考を持た

せるものであってはならない。

(7) M I A の各標準を遵守する者のみ集会場に入ることを許可されるべきである。

(8) 集会場の総体的な雰囲気や状態は常に、注意され、必要とされる時に改良されるべきである。(健康上の面からも)

さて皆さんがこれらの M I A の標準を守って、まず「M I A」と言う集会が開かれるべきであろう。貴方の支部の M I A は、貴方が創りあげるのである。今日貴方が M I A の集会に行く時に、もう一度、M I A の標準について想いおこしてみてください。(栄子記)

#### M I A 書記の皆様

一年で最も寒い時節がやって来ました。集会の出席人数も少なく、記録もさみしい時ではありませんか？ 常に貴方によって出された記録を会長会に発表し、より成績をよくするよう検討して下さい。

#### 発表事項

一、二月のプログラムは第三週迄定例集会ですが四週目は一般活動で年令別に別れるようになっていきます。詳細は、欄外か他の用紙に記録して下さい。又各地方部に於てスキー、スケートなどの特別な企画がなされていると思いますがそれも記

録して下さい。

一、大変レポートの作成方法もよくなって来ましたが記録のおくれた支部はほとんど新しく変わったので分らないという理由です。もし貴方が他の仕事に召された時は、新しく召された書記によく事務の取次をして下さい。

一、ヤング・マリーのクラスについて伝道部として再度検討中ですのでクラスを開いているように記録されている支部がありますが開いているか否か、又何名出席しているか(すべてのクラスを通して)できるだけ確実に知らせして下さい。

又結婚を控えている人又、出席する可能性のある人もそのように記して、二月のレポートと共に提出して下さい。

一、Y W M I A 登録会員の氏名、年令、生年月日はまだ一部の支部だけしか提出されていませんので至急提出して下さい。一、カレンダーが残っておりるので必要な支部は一部三十五円を同封し申込み下さい。尚送料はいりません。

○書記の方の住所氏名を別紙に記入してレポートと共に御送り下さい。(塚田記)

#### 十一月分レポート締切日に遅れた支部

東京西・横浜・名古屋・柳井・京都・甲府  
仙台・岡町以上八支部です。

(今月は郵便の遅配の為と思われる支部もあります。気をつけて下さい)

#### 締切日迄にレポートを提出しなかった支部名

12月 室蘭支部・札幌支部・群馬支部・仙台  
支部・東京東支部・東京西支部・横浜  
支部・阿倍野支部・広島支部・京都支  
部・名古屋支部・岡山支部・三ノ宮支  
部・柳井支部・普天間支部

現在、此の北部極東伝道部には29の支部があります。それらの29の支部は、それぞれ M I A を持っておりますので本伝道部の M I A 表は29となります。

当然のことながら提出されなければならないレポート数は29ですが、残念なことながら12月は14の支部が、期日迄に提出したに過ぎませんでした。全体の約50%で統計をとることは、真に遺憾です。どうぞ、M I A 書記の皆様頑張って貴方の仕事に精出して下さい。大変忙しい仕事ですので、一人でもやりきれない時は書記の補助を支部長に申し出て下さい。いつも本当に御苦労様ですが、今月のレポートも遅れない様に。



### ミッシェロンマザ 伝道部扶助協会長メッセージ

ペギー・ヒュイシ・アンダーセン姉妹

す。また未婚の人たちのためには、機会があったときにこれらの二つの役割を果たすことができるようにそなえをすることが、その人たちのなさねばならぬこととなります。女性はこの記事の中に示している役割を果たすためにこの地球の上に置かれたのであります。

「感謝を神に捧げん」

感謝を神に捧げん 予言者のみちびき

末日に福音を

光とたまいぬ

(讚美歌 第七十)

新しい年を迎えてまた生活を始めることができるのをほんとうに感謝して居ります。そして、私はことしもまた日本と沖繩で日を送ることになるのをとくに感謝して居ります。私たちが教会のたいせつなプログラムについて一しよにもっと学ぶときに、また主なる神さまがその子らにお与えになった計画——イエス・キリストの福音をもっと一心に履み行なおうとするときに成就のできることを、私は大きな期待で予想して待ち受けて居ります。私は教会の婦人たちの役割についてずっと夢中になって考えて居りますが、つい先だって千九百六十三年十一月発行の扶助協会誌に、扶助協会中央評議会の第一副会長マリアンヌ・C・シャープ姉妹の論説が出て居りました。それで、私はそれをそっくりちようだいして今月の私のメッセージにしたと思います。そして私は、この論説に出ている考えがみんな主なる神さまのみことばであることをたしかに知って居りますとまじめにあかししたいと思います。私はあなたがた一人一人がみなこの記事の中に大体を述べてある「婦人のための偉大な計画」を本当に理解なさるよう祈ります。私たちがすでに結婚して居ります者たちのために、私たちの役割ははつきりきままって居りま

「末日聖徒である婦人たちは自分たちがイエス・キリストの教会の会員であって、一人の予言者に導びかれていられることを、ほかのすべての人々にもまして有難いと思うことができます。また各自の夫が神権をもって居て、その家族のために神権の権能を行使することを感謝することができます。」

今日、変化している世界によって、また特に今の世界の婦人の役割が変わりつつあることよって大きわががされていきます。婦人自ら達成する必要がある新しい地位と臨機応変の才能とについて口まめに語られています。しかし、末日聖徒にとってこれらの言説にはきべんがつかまれています。現代文明の求めているものが一層の教育と永年の訓練を必要としていることは本当であります。人間の

心の根本的な性質と特性とは昔も今も変わって居りません。主なる神は人をかたよりに見たもう御方ではありませんから、神の子らはどの「神権の時代」においても、彼らの生きていたそのとくべつな時代にたまたまった真理の光にてらし、各自の考えと行いによってさばかれるのであります。

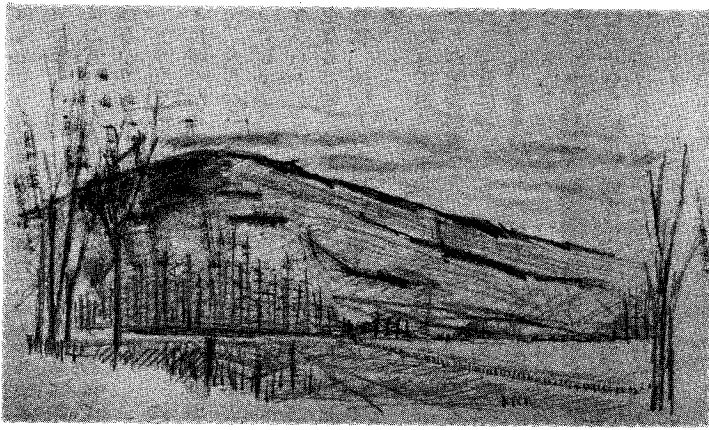
まったく偉大で貴いこの「神権の時代」には、満ち充ちている光と真理のために教会員たちのさばかれる標準があります。宇宙旅行や、人間が月やその他の天体に到達するかどうかなどの憶測は面白いでしょうが、現在人間のもっている知識ではおそろくだれ一人アブラハムが天についてもっていた知識に及ばないでしょう。それは主なる神御自身がアブラハムに御手のわざをお見せになったからであり、地球上の生活の法則は今も昔も変わっていないからであります。

それでありますから、経済上の圧迫やその他の圧迫によって婦人たちが労働市場に入って行かなければならない、または招き入れられる今日においても、婦人の為すべき仕事は変わって居りません。末日聖徒である婦人たちは予言者の指導によって、自分たちの根本的な役割は少しも変わっていないことを知って居ります。その役割は、夫にとっては妻であり助け手であり、また自分の霊の父である神の霊の子らを此世で肉体に宿らせて、主なる神の保導と戒めのうちに育てあげる、人間の親であるという昔から変らない永遠なる役割であります。始祖のイヴがアベルとカインとセツを産んで以来変わったところがあるでしょうか。イヴがもっていたいなかったどのような心(または霊)の性質が今日の女性につけ加えられているでしょうか。妻としての母としての女性の役割も、また女性のもっている性質も英知も、昔から変わって居りません。

イヴはその息子のカインの心の中にある悪をひじょうに悲しいと

思う経験をしましたが、また今日イヴの子孫である娘たちと同じように主なる神を信仰し依り頼む自由をもっていました。私たちは、偉大なる母であるイヴが光である真理をカインに教えることを怠っていたと信ずることはできません。カインの悪事についてイヴに一点の非難するところもないことは、今日の母親についても同じことが言えるでしょう。

今日の世界において、昔と今とちがっているところは表面だけであります。女性そのものは今も昔も同じであります。女性の根本的な美德をうちこわすいろいろな誘惑には、神がお与えになった妻としてのまた母としての仕事から女性をおびき出そうとするサタンがいろいろな装いをさせたり、いろいろな興味をひかせたりしています。昔も今も信仰、悔改め、祈り、忠実、模範、福音が真実であることを知って実践することなどの美德は同じように必要であります。「女性にその資質を充分に發揮させる」ためには何の新規なことも必要ではありません。洗濯機、乾燥機、高速計算機、服飾品、自動車、ヘリコプター、飛行機、タイプライター、高度の教育、宇宙旅行などはみな女性をおとし入れようとする可能性をさし出しています。しかし、女性のもっている自由意志には変わりありません。主なる神は、その子らに才能を發達させよと教えておいでになりますから、女性はその中にもっている力を極度に發展させてもよいのであります。それでも、女性は妻であり母である自分の根本的の役割をしっかりと居ります。どんなことをしよう、機会がおとずれるままに女性が自分の資質を充分に伸ばすのはよいけれども、妻であり母である役割を忘れてよいということはありません。夫にとつて助け手であり子供らにとつて養育者であれという、主なる神がイヴにお与えになった二つの根本的な戒めに従順であることによつて喜びと昇栄とが与えられるのであります」。



母親ルシイ・マック・スミスの語る

## ジョセフ・スミスの生涯（十五）

### 第二十八章 ハリス夫人ジョセフを訴える、一方的の審理

八月の始めころ、ジョセフが成功しているという知らせを持ってサムエルが家へ帰ってきました。

註。サムエルがハーモニーから自宅へ戻ってきた時について、スミス夫人はここでまぢがいをしているらしい。ジョセフとオリヴァはデビット・ホイットマーと一しょに千八百二十九年五月の終りか六月の始めころニューヨーク州ウォータールーへ向けて出かけたから、サムエルがひとりきりでハーモニーにのこっていることは考えられない。

マーテン・ハリスはこの情報を耳にして、ペンシルベニヤへ行つてジョセフたちが成功しているの様子をぜひ見たいものだという気持ちを起しました。ハリス氏がこれをハリス夫人に言うとき、ハリス夫人はハリス氏をペンシルベニヤへやるものかと決心し、同時に、ジョセフが今従事している仕事を完成することをさまたげるような困難にジョセフをおとし入れようと決心しました。

この目的を果すために、ハリス夫人は、ジョセフはあの「記録」をもっていると人前で公言したが実は持っていない、また或る金版をもっているふりをしてるが、実は金をもうけるという特別な目的でそうしているのである、ということを証明しようとしたしました。この計画に従つて、彼女は馬に乗り、暗黒の霊のように家から家へと隣り近所をのこらず訪問して、何か情報を集める望みがいささかでもあるところは熱心にたずねまわり、彼女の悪い目的に役立つ悪感情を一つのこらずかき立てました。そして、自分に味方をする者の数と力をたしかめた後、ライオンズのある治安判事にジョセフを

訴えました。彼女はそれからライマン・カウドリのところへことをして、(ジョセフに有罪の判決があった場合に)ジョセフを逃げないように牢屋へ入れる助けをするため、大急ぎでペンシルベニアへ行く準備をしてライオンズへ来るようにたのみました。

註。ライマン・カウドリはオリヴァ・カウドリの兄弟で、郡の役人であつたかも知れない。

ライマン・カウドリはこの呼びかけにすぐこたえたので、万事はハリス夫人にとって順調に行っているようでありました。彼女は、自分自身多くのことに対して陳述書をつくり、召喚する役人たちにあてて出しました。その中にはこの事件の主な証人である彼女の夫ハリス氏も入っていました。

裁判の日がやってきたとき、隣り近所の人たちが私たちのところへ来て、もしも宣誓によって得ることができらばなら、ジョセフが有罪である評決を得ようという意向を公然あらわして、証人たちはすでにライオンズへ行つたと告げました。私たちの友人が去るとすぐにハイラムが入ってきましたので、私はどうしたらよいだろうかとハイラムに聞きました。

するとハイラムは「そうですね、お母さん。神さまにたよるほか私たちは何にもできません。神さまの中にすべての助けと力があります。神さまはあらゆる困難から救つて下さることが出来ます」と答えて言いました。

私はこの大切な義務を一度たりともおろそかにしたことはありませんでしたが、それでも、今私の息子の信仰がこのように強いのを見て、この試れんの時に力づけられました。私はこのような訴訟にはなれて居りませんでしたから、どうなることかと体がふるえまし

た。これは私の家族の者に提起された最初の訴訟であつたからであります。私は人の居ない所へ行き、私の心をすべてかたむけて私の息子の安全を神さまに乞ひねがいました。そして、しばしの間神さまに嘆願をつづけましたところ、とうとう「みたま」が力強くお降りになったので、すべての不吉な予感私の胸の中から消え去り、一つの声が私に話しかけて言いました、「彼の髪の毛一筋たりともそこなわることなし」。これを聞いて私は満足しました。私は立ち上つて家へ行きました。私は一生のうち、この時ほど幸福であつたことはありませんでした。私は腰をかけて本を読み始めましたが、感情が高ぶつてとても静かに読んでは居れませんでした。それから間もなく私の息子のよめジェルーシャが部屋へ入つて来ましたが、私をながめるとき急に止まって「まあ、お母さま。どうなすつたの、今日のように変つたお顔は初めて拝見しましたわ」と叫びました。

そこで私は、今日くらい幸福な日は一度もあつたことがない、私の心は軽々としてるので、私の精神は全く静かである、私が生きている間もう苦しみは決してありそうもないと思われる、と申しました。それから彼女に、私が主なる神さまから受けたあかしについて告げました。

その晩、法廷の訴訟手続がもう一度私たちに話して聞かされましたが、それは次の通りであります。

証人たちが定められた通り宣誓をすまずと、最初の証人が立つてジョセフ・スマスは私に、自分のもっている箱には砂のほか何にも入っていないと言いました。しかしジョセフ・スマスは人々をだますために砂を金だと言つたのでありますと証言しました。

次の証人は、ジョセフ・スマスは私にそれは鉛の箱にすぎないと言いましたが、自分が適当だと思つるように利用しようときめたのでありますと証言しました。

最後の証人は、一度私はジョセフ・スマスにその箱の中に何があるかとたずねましたところ、ジョセフは箱の中には何も入っていないのだと言ひ、そしてみんなをだましてやったが、マーテン・ハリスから金を取りたいだけでやったことなのだ、と申し立て、その上ジョセフ・スマスはハリスを説得してもう二三百ドルは取つてゐることを知つてゐると言ひました。

次にハリス夫人の陳述書が読まれましたが、彼女はその中で、ジョセフ・スマスが考へてゐる主な目的は彼女の夫からすべての財産をかたり取ろうとしてゐることだと私は信じています。また、ジョセフ・スマスがあれほど言ひふらした金版を持つてゐるとは信じませんと言ひました。

そこで治安判事はマーテン・ハリスの宣誓を聞くまでこれ以上証人から証言を聞くことをとめて、マーテン・ハリスを呼び入れました。すると、マーテンは二・三の簡単な事實を勇敢に、きつぱりと力強く証言しました。マーテン・ハリスは片手を天に向けて挙げ「私は次の通り誓つて言うことができます。ジョセフ・スマスは一ドルといへども私を説得して自分のものにしたことはありません。神が私に与えさせたもうたからであります。私は自由の意志により、主なる神のみわざを行なうため、多くの証人の目の前で彼の手に五十ドルの金をわたしたことがあります。私はこれをはっきりと証明することができます。さらに、私はジョセフ・スマスを見てゐるに、彼には他人の金をとるような性質はない、他人から金をもらつ

たときには返礼としてそれに相当な報酬を必らず与える人であることを知つてゐますと申しあげることができません。またジョセフが持つてゐると人々の前で言つた版については、もしあなたがそれがそれを信ぜずいつまでも真理を拒みつづけず、いつかはそれがあなたがたの靈の進歩をさまたげるなかだちとなるにちがひありません」と言ひました。

註。マーテン・ハリスがこのように勇敢に予言者を擁護したのはまことに立派である。

この証言を聞き終ると治安判事は一同に向つて、これ以上証人を呼ぶには及ばない、今までに文書にしたためた証言を提出するようにと命じました。その文書が出されると判事をそれ一同の目の前でずたずたに引き破り、このようになげかけた事で本官をわずらわせないで、各々家へ帰つて家業に精を出したらよからうと言ひわたししました。それで相手は完全に計画をくじかれて各自の家へ戻つて行きました。

## 第二十九章 ジョセフとオリヴァ、ウォータール

### へ移り、金版の翻訳完成する

さて、ジョセフとオリヴァが一生けんめいあの「記録」の翻訳に従事してゐたベンシルベニヤへ私たちの話を戻しましょう。

サムエルが二人をのこして旅立つて行つた後、二人はニューヨーク州ライオンズで訴訟が起つた時の近くまで、以前と同様翻訳の仕事をつづけました。そのころ、ジョセフが「ウリムとトミム」を使って翻訳をしてゐたとき、ジョセフは(後にモルモン経となつた)翻訳のこぼを受けるかわりに、ウォータールに住むデ

ビッド・ホイットマーという人のところへ手紙を書いて出せということばを受けました。その用向というのは、悪事を計画している人たちが、神のみわざの世界中へひろまるのをさまたげるため、ジョセフの命をとろうとしているので、オリヴァと彼とをホイットマーの家へつれて行ってくれるよう、車を曳く一組の馬と一しよにすぐ来てもらいたいということでありました。ジョセフはこの手紙を書いて出しましたので、デビッドはそれを受けとって読み、父母兄弟姉妹たちに手紙を見せて、この件についてはどうしたら一番よいかと一同にたずねました。

するとデビッドの父親はデビッドにむかって、お前は少くともたつぶり二日かかってまぐわでならずに充分なほど麦をまいておいたはずだ。またその上に多量の石灰があるが、これはすぐにまいてしまわなくてはならない。そういうわけで、絶対に行かなくてはならないということが神から証明されなければ行くことはできない、と申しました。

デビッドは父親からこのような提案をされたのを喜び、ジョセフを助けに行くことについて証しを得られるよう主なる神さまにおねがいをしましたところ、「みたま」の声により、麦にまぐわをかけてしまったらすぐに行けと言われました。そこであくる日畑に行つて見ますと二日間一生けんめい仕事をしなくてはならないことがわかりました。それでデビッドは自分の胸に問うて言いました。もしも何かの方法で、いつもよりも早くこの畑仕事をしてしまふことができたとするならば、ジョセフ・スミスが従事している仕事を助けるために全力を尽せという神のみこころである証拠として受け入れよう、と。デビッドはそれから馬をまぐわにつないで畑を、ふつう

農夫が言っているように、二つの耕地にわけないで全部の畑にまぐわをかけました。このようにしてお昼まで休みなく働らき、昼食をとるために一休みしたときまわりを見わたしてみると、驚ろいたことに畑の半分は完全にまぐわをかけ終ってしまいました。そして、昼食を終るとまた前のように仕事をつづけましたが、夕方ごろにはたつぶり二日かかる仕事を一日ですませてしまっていました。

デビッドの父親はその晩畑へ行ってみてデビッドのした仕事をみると、「これには神の御手はたらいているにちがいない。お前は石灰をまいてしまったらすぐにペンシルベニヤへ行った方がよいと思うよ」と言いました。

そのあくる朝、デビッドは木のますを小わきにかかえ、石灰を畑にまこうと、二日前から妹の家の前に石灰をつんでおいたところへまいりました。ところが、その場所へ来てみますと、何としたことか！ 石灰はなくなっていました。そこでデビッドは妹のところへ走って行って、石灰がなくなつたことが知つているかと思ひました。それを聞くと妹は驚ろいて言いました、「何でまたそんなことを聞くの。石灰はきのうまいてしまつたんでないの？」。デビッドが「そんなこと知らんよ」と言いますと妹は、「まあ、そうなの。おひる前に子供たちが来て、お母さん出て来て畑へ石灰をまいている人たちをごらんよ。あんなに早くまく人見たことないわ」と言うので、出て行ってみるとその通り三人の男の人たちが畑で仕事をしていたのよ。しかし、私はあんなに忙がしいので手伝いをやとつたのだと思つてすぐ家に帰ると、すっかり気に止めないでいたけど、今聞いてびっくりしたわ」と答えました。

デビッドはこれについて親戚の人たちにも近所の人たちにもかか

り問い合わせてみました、だれがしたことかわかりませんでした。しかしながらホイットマー家の人たちは、この不思議な出来事には神の御手が働らいていらっしやるにちがいないと信じました。

そこでデビッドはすぐにペンシルベニヤへ向けて出発し、二日たつて到着しました。この道のりは百三十五マイルにおよびましたが、すこしも馬をいためずに旅をすることができました。ペンシルベニヤへ着いたときデビッドはジョセフに自分を紹介しなくてはなりませんでした。デビッドがジョセフと顔を合わせたのはこれが始めてであったからであります。

私から申しますと、スミス家とホイットマー家とが知り合ったのは、私たち夫婦がジョセフをたずねるためマンチェスターからペンシルベニヤへ行ったときの一度だけで、その時私たちははじめてデビッドの家にとまり、あの「記録」のことについて簡単に話をしたのであります。

さて、ジョセフが旅の支度を始めたとき、ジョセフはどのようなにしてあの「金版」をもって行くかを知るために主なる神さまに伺いました。そのお答えには、「金版」はすべて天の使者の手にまかせよ、安全をはかるためである。そして、ホイットマー家についてから、天の使者は庭で汝と会い再び「金版」を汝の手にわたすであろう、とのことであります。

ジョセフとオリヴァとは、留守の間にはエマに任せておいて直ちに出発しました。そしてウォータールーに着くと、さきの約束通り再び「金版」を天の使者から受け取りました。翌日、ジョセフとオリヴァとは翻譯の仕事に再びとりかかり、それから何のきまたげも受けずに、ついに翻譯を完成いたしました。

註。エマは間もなく二人のあとを追ってホイットマーの家へ着いた。エマがジョセフと一しょにホイットマー家に居たことは解っている。

すでに述べたように、デビッド・ホイットマーによると、デビッドがジョセフとオリヴァとをつれてウォータールーに着いたのは千八百二十九年五月の下旬か六月の下旬である。

### 第三十章 十二人の見証者に「金版」が示される

ジョセフは「モルモン経」の翻譯がすむとすぐに、翻譯が完成したという知らせを持った使いを父親のところへよこして、私たち夫婦にすぐウォータールーへ来て下さいと言いました。

註。デビッド・ホイットマーによると、「モルモン経」の翻譯は千八百二十九年六月の下旬に完了した。

その夜、私たちはこの知らせをマーテン・ハリスのところへも持って行きました。この人の弱点は私たちに大きなめいわくをかけて居ましたが、この際、吉報を持って行きますとそれを聞いて彼はひじょうに喜び、ジョセフの成功を祝うためにすぐウォータールーへ行くことにきめました。これによって、翌朝私たちはつれ立って出発し、夕方になる前にホイットマー氏の家でジョセフとオリヴァに会いました。

その晩、私たちは翻譯された原稿を読んですごしましたが、私たちがどんなに喜んだか読者の皆さまに申しあげるまでもないことであります。その時、これからの仕事が多量に大へんな仕事であるか本当に解っていない私たちにとって、最大の困難がこれでのり切られたかのように思えたのであります。しかし、「神権の時代」を

ゆだねられたジョセフには、その性質がどんなものであるか私たちよりもよく解つて居りました。

そのあくる日、いつもの通りの礼拝、すなわち聖書の朗読、讚美歌、祈り等をすまずと、ジョセフは立ちあがって、今考えても私の血管という血管にじんとひびくほど壮嚴な態度でマーテン・ハリスに近づき、「マーテン・ハリス、あなたは自分の罪を赦していただくために今日神の御前にくりくだらなければならぬ。もしもへりくだるならば、あなたはオリヴァ・カウドリ、デビッド・ホイットマーの二人と共に、あの金版を見るであろう。これは神のみこころである」と申しました。

その数分後にジョセフ、マーテン、オリヴァ、デビッドの四人は家の近くにある木立の中へ入って行き、主なる神に祈りをささげ熱心に祈願をつづけました。その結果、ついに天の使者が神のみもとから天降り、ジョセフがあ版について証しをしたことはすべて真実であるとおごそかに言いました。

四人が家へ戻ってきたのは午後三時と四時の間であります。家へ入つてくるとジョセフは私の側へどつき腰をおろして「お父さん、お母さん。私がどんなに喜んでるかご存じないでしょう。主は私以外に三人の者にも、今やあの版を見せて下さいました。三人の者は彼らに証しをした天の使者を目のあたり見ました。それですから、彼らは私の今まで言ってきたことが真実であると証しをしないでほならぬでしょう。それは私が人々をあざむくために一生けんめいになつていたのでないということ、今や彼ら自身知つてゐるからです。それですから、私はほとんど負いきれなかつた重荷をおろしたような気がします。また私はもうこれから世界中でひとりば

つちではないので私の心は喜びに満ちています」と大声で言いました。この時ハリス氏が入ってきましたが、ほとんど喜びに堪えきれないような様子で、見たり聞いたりしたことを証しました。デビッドもオリヴァもその通り証しをした上に、私たちの心の中の喜びと見たり聞いたりしたことすばらしさは、とても口では言いあらわせませんとつけ加えて言いました。

この三人の見証者が書きあらわした証詞はモルモン経にのつて居て次の通りであります。

「このモルモン経を手にするあらゆる国民、あらゆる血族、あらゆる國語の民およびあらゆる人々よ聞きたまえ。われわれは父なる神とわが主イエス・キリストの恩恵によつて、この記録の誌してある版を見た。これはニーファイの民と、その同胞であるレーマン人と聖典に語られているあの塔からきたジュレドの民の記録である。また、われわれは神の御声が明らかに告げたもうから、神の賜と能力によつてこの記録が翻譯されたことも知つてゐる。それであるから、われわれはこの經典が真実であることが確に解るのである。またわれわれは、その版の上に刻んである文字を見たこと、この文字を見せたのは人間の力でなくて神の御力であることを証する。また、一人の神の使が天降り、この版を持ってきてわれわれの目の前に置きたもうたから、われわれはその版とその版の上に刻んだ文字を確に見たことを謹んで明言する。われわれが目に見てこれらのことが真実であると証するのは、父なる神と、わが主イエス・キリストの恩恵によることを知つてゐる。これはわれわれの目に誠に驚嘆すべきことではあるが、主の御声がわれわれにこれを人に証せよと命じたもうたから、神命を畏んでこれらのことを証する。

## 扶助協会 レッスン

### 「神學」—教義と聖約

(千九百六十四年三月第一週)

### 第五十四課 管理人の職 復習

(教義と聖約)七十、七十二)

目的—管理人の職の重要さ、監督の仕事及びこの年の啓示の貢獻に就て学ぶ

はしがき

一八三一年の十一月の最初の十二日間に予言者、ジョセフ・スミスによって四つの特別大会が司會されました。これらの大会の模様の一部は既に述べて来ました。(扶助協会雜誌、一九六三年度九月号、第五十二課)その事務の主なものは啓示を集めた誠命の書の編集でありました。この時予言者はこの啓示がすべての人に知られる価値あるものであると評価したのであります。彼は先づその啓示は末日に於ける教会の土台であった事を指摘しました。予言者は又これらの啓示は神が啓示し給うすべての言葉に喜んで従おうとするすべての人に永遠の生命をもたらすので

世の中に、大いなる利益を与えるものであると言いました。人がこの事実を考える時彼は直ちに次の事を思い出すべきであります。先づ神の指示は、その為に回復された神権を以て教会を組織することに与えられました。次に啓示は救いの原則と儀式を以て忠実な人を昇栄に導く救いの道を明らかに示して居ります。第三番目にそれは誓約が如何に破られず守られるかに就ての特別の指示を与え、人の生涯に於ける目的を理解させているのであります。第四番目には主のみこころは、世界の現状から人は将来に何を期待すべきかを示して居られます。第五番目に肉体的に靈的にこの生涯に於てよい生活をする事によつて、如何に喜ぶがもたらされるか、その大きな祝福を示しています。人の知識にもたらしているこれらの又その他

の貢獻は予言者の評価を充分に支持するものであります。十一月に開かれた最初の大会で

次のように啓示を印刷することを承認し票決したのであります。……彼らは啓示は現実生活の事を示して、教会にとって価値あり、又全世界を富ませるものであるとねおみしました。主がその無限の英知を以てよしとせられ、すべて信ずる者に救いを得させる為に又私たちの救いの為に与えられた啓示とモルモン経から、世の中にもたらされた大きな利益は正しく評価されたのであります。……(教会歴史録第一卷 二三五—二三六)

### 第七十章

この声明に次いで予言者は彼の求めに応じて七十章が与えられたと書いて居ります。第七十章の一節に数名の長老たちの氏名が記され二節から九節に啓示を印刷するにあつたての彼らの責任に就て述べられてあります。更に彼らはその出版配布迄見届けねばならなかつたのであります。書物は売却せられその残余は監督の手許に置いて、シオンの忠実な住民に献上する為に主のくらに納められたのであります。大会の議事録の中に、最初から予言者と共に働らいた四人の兄弟、オリヴァ・カウドリ、マーテ

ン、ハリス、ジョン・ホイットマン、シドニー・リグドンの氏名が記されています。彼らは他の数家族と共に、教会の律法によつてシオンの監督から、遺産を承ける資格があつたのであります。(教会歴史録第一卷 二二六頁)

### 管理人

第七十章に記名された兄弟たちの前述した啓示を心配する責任は管理人として参照されました。管理人としてこれらの長老たちは、厳密にその責任を果さねばなりません。管理人としての重責は次のように示されて居ります。而してこの管理人の職のことに就きては、われ審判の日に聞きただすところあらん。(教義と聖約 七〇・四)

この真理の適用を全教会員に主が与え給うたことにあてはめてブルガム・ヤングは次のように論じています。……私たちの義務は何でしょうか? 主が私たちに与えられたすべての祝福を進歩させるのが私たちの務めでありませう。若しも彼が私たちに土地を与えて下さるならそれを改善する。若しも彼が私たちに家を建てる特権を与えて下さるならそれを發展させる……若し



の事務家でありました。恐らくこの重職、監理監督会の責任を負うのにニューエル・ケイ・ホイットニーよりも資格を持った人はなかったのであります。けれども彼はそれを見るのが出来ず、その責任に、しりごみしたのであります。予言者は答えました。「行つてそれを主にたずねなさい。」そこでニューエルは言われた通り主にたずね、彼は天より次の声を聞いたのであります。「汝の力は我が内にあり。」それで充分なのであります。彼はその職を受け、そして彼の生涯の最後の日迄十八年間忠実に仕えたのであります。(一九一九年六月、大会報告四七―四八頁)

- ホイットニー監督の義務は次のように定められました。
- (1) その地方の長老たちの管理人職の報告書を受ける。
  - (2) 主の倉庫を守る。
  - (3) 資金を受け納める。
  - (4) 長老たちの不足するところを授ける。
  - (5) 支払うべき金を持たない長老の報告書を受けつてこれをシオンの監督パトリックに送る。
- (教義と聖約七二・五一―一三)  
ホイットニー監督はその地方の

長老たちの管理人としての職を監督するように要求されましたが管理人たち各自も、その時も、永久にも管理人の職に関する報告書を差出すことを要求されたのであります。(同上、三節) 祝福の基く律法に従うときに天からの祝福がもたらされるのであります(同上、一三〇・二〇―二二) 私たちは次のように告げられて居ります。

#### 適用

……忠実にして賢き者はわが父の彼に備えたまえる住家をつぐ資格ありと認めらる(同上七二・四)

前述のカートランドに於ける列挙された監督の責任を見る時、そしてそれを今日のワード部の監督にあてはめて見るときにこの職の同様の責任を見ることが出来るのであります。七十二章の十二節に監督は貧しい者乏しい者の世話をする」と述べられてあります。監督の召しは、単に貧しい者、病める者、苦しめる者の世話をするだけでなく次のような責任のあることをジョセフ・F・スミス大管長によつてよく説明されて居ります。

教会の会員の靈的福祉をも考慮し、彼らが道徳的に清く正直な生活をしているか、末日聖徒として

の責任を果しているか、お互に又世の人との交りに於て真実であるかなどを見守ることも管理者の職にある監督の義務であります。會員たちの心の中に靈的な光がともされていくかどうか、そして彼らの管理の下にある人々が肉體を持って居る限り、弱さと不完全さに悩まされ得る以上、聖徒としての生活をして、聖徒たり得るであろうか見極めることも彼らの務めであるのであります。これらのことに偉大な責任がかかつて居り、私たちは教会の中で働らかねばならず、これに関連して人類の福祉の為に忠実に働らいている巨大な有効な一団の人々が居るのであります。(一九〇四年十月大会報告三頁)

七十二章の結論

全財産献納法運営に就ての情報

が更に与えられ、カートランドに於ける教会の會員に対し、彼らが資格ある會員であることを示す証明書を携えてシオンに行く必要があることが特に強調されました。(教会と聖約七二・一六―二六)

同様の手続きが今日でも會員証として知られるものに見られるのであります。

この啓示は賢明な管理人は啓示

された注告に従うと結論している(同上、二五―二六) 要するに主の言葉に従う會員は教会に関することを第一にします。シオンの為に献身するプリガム・ヤングの生涯は忠実な管理人の素晴らしい模範であります。(教義と聖約註釈四二―八頁) 私たち各人は皆賢明な管理人としての要求になつて居るでしょうか?

#### 過去はどうでしたか

七十二章は一八三一年度最後の啓示であります。教義と聖約の巻頭にある、年代順の内容に示されてある通り、この年が最も多く啓示を受けた年であります。

この章を復習する時、一八三〇年の後半及び一八三一年に教会が急速に成長した為に多くの問題を生じたことを示して居ります。年の始めに、主は聖徒たちの貧しいことを認め、律法を与え、若しそれに生活するならば物質的に恵まれ靈的に彼らを一につに結合させるであろうと約束されたのであります。その結果は各人が地上の富を平等に祝福されることとなるのであります。(三十八章) メルケゼデク神権の大祭司、監督、アロン神権の管理者、及び教会の歴史家などの役員が教会に追加され

ました。(教義と聖約註釈二〇五頁、教義と聖約四十一章、七十二頁及び四十七章)約束された、律法。(四十二章)は

(一)福音を説くこと

(二)道徳的な行動(貞節)

(三)献身

(四)病人を癒す為の按手

(五)いろいろの義務

(六)奉仕に対する報酬

(七)罪に就ての律法

を含んで居ります。

只一人の人だけが教会の為の啓示を受けることが出来るが他の者もそれぞれ各自の導きの為に受けれるという根本原則も与えられました。主の再臨の前に関係する事項に就ての大きい啓示がこれに従ったのであります(四十三章及び四十五章)

一連の啓示は一八三一年及びそれに続く数年間、教会の会員の為に、だまされないように警告する鍵を含んで居ります。この章には聖靈の賜により、会員たちが欺かれぬようにいろいろな賜を以て強められ、利益が加えられることを助言して居ります。(四十六章)シェーキング・クエーカーとして知られる宗派の人々に伝道するよ

一九六一年八月号第三十四課)又この世の目的、結婚の必要なこと、偽りのキリスト及びその他の詐欺者に対抗する鍵、逐には教会は、ロッキー山脈地帯に移動するであろうことなどに就いて知らされました。(四十九章)五十章で偽りの霊が不注意な者をだまそうとしてあらわれ、教会の内外に於ける偽りの教えを検査する為の指示が与えられました(五十二章)

導きを求めている各人に助言が与えられました、それは次の三つの事実を指摘して居ります。

(一)早く主を求めめる者は、この世で完全な長い生涯を送る為豊かな恵みを受け又永遠の祝福を受け

(二)常に誠命に生活し終り迄、堪え

忍ぶことによつて最高の栄に高

められる(五十三章)

(三)人が己の十字架を背負うことは、誓約の子として多くの約束

を果さねばならないのである。

(五十六章)

予言された新エルサレムの場所及び方向を知らされ聖徒たちの期待が実現されました。この地上にシオンを建てる為に働らく目的が

明らかにされました(五十七章及び五十八章)

この時期に、安息日を守ること

及びこれに従うことによつて多くの便益がもたらされる事が知ら

されました。(五十九章)

多くの艱難に逢うこと(五十八章)

及び未の日に水の上を警戒する

よう啓示されました(六十一章)

宣教師にその才能を使うよう

に、又証しを述べように命ぜら

れました(六十章及び六十二章)

しるしを求めめる者の運命が再び

示され、神聖なことを軽んずる者

に対する警告が強調されました。

(六十三章)

本年度の勉強する章はその年の

啓示を完全に終えておられます、即

ち悔改めと赦し、神の業の終局の

勝利、教会組織に就ての私たちの

知識に対する更に追加、監督會、

そして最後に子供を育てる親の責

任であります。

結 論

啓示の確実なことは、その内容と、この神権時代の目的にかなつた統一性とその秩序ある配列によつても明瞭であると真実に言うことが出来るのであります。ジョセフ・スミスは神の導きに従おうとする人たちを導くべく任命された

神の予言者であつたのであります。

討議の為の質問

一、教義と聖約の中の啓示は、如何なる方法に於て教会の基礎となつていますか?

二、貴方は教会の会員を、賢明な

管理人として資格する特別な

な資質は何であると考えます

か?

三、働きの人がその報いを得るの

は当然である。に就て討議しな

さい。

四、一八三一年度に受けた啓示の

内、特に目立つた貢献をもたら

したものを挙げなさい。

五、教義と聖約註釈四二九頁にあ

るように、一八三一年度の啓示

の評価に於て主要な点は何でし

ようか。

訪問教師のメッセージ

(千九百六十四年三月第一週)

「教義と聖約」にもとづいて

実践する真理

メッセージ第五十四

「およそこれを受くる者は更に

豊に与えらる」(教義と聖約 七

一・六)

目的 知識はより多くの知識に導き知識は知恵を得ることを示

す。

このメッセージを引用した教義と聖約の全文は次のように述べられてあります。

さて見よ、これは知恵なり、故に読む者すべからく悟りてまたこれを受くべし。およそこれを受くる者は更に豊に与えらる。能力すら与えらるるが故なり。(教義と聖約七一・五一六)

福音を宣べ伝え、授けられたるたまふ能力によつて王国のことを説明するように召された人たちは、福音の真理を宣言する時に、更に福音を教える能力を与えられるのであります。才能又は能力を加えられると云う約束は主によつて次の言葉にも見られます。

おおよそ、持つている人は与えられて、いよいよ豊かになるが、持つていない人は、持つてゐるものまでも取り上げられるであらう。(マタイ伝一三・一一二)

この約束の成就は、私たちが福音を宣べている時だけでなく知識、知恵及び理解を求めている時にも自覚されるのであります。知識に知識を加へることの確認は、この生涯に於て、最も興味あり、その努力を報いられた満足と喜びを感じるものであります。知識の

興味ある特長の一つは私たちがそれを求めて受ける時にそれは拡大されることでありて私たちにそれらに多くの真理に導きます。知識は更に知識の門を開き、人はその学ぶ能力が進歩し、理解する範囲が拡大することを学びます。ヒーパー・ジェエマー・グラント大管長は次のようなエマーソンの金言をよく強調しました。

私たちが或ことを為し続けていると容易になる。それはそのことの性質が変化したのでなく、それを為す私たちの能力が増大したのである。(福音の標準三五五頁)

グラント大管長自身の生涯がこの根本的な真理の劇的な模範でありました。彼は練習と特権を以て多くの並々ならぬ困難に打克つて一つ一つ習得し、それを以て更に次のものの習得に備へたのであります。彼の習字の努力が殆ど読めなかつたような字から、素晴らしい美しい筆跡となつたことは有名であります。又彼は小さい時に音痴で、彼に音楽を教へようとした教師は失望したのでした。けれども彼の決断と一步一步練習し続けるその努力は遂に多くの歌や讚美歌を習得したのであります。

有名な音楽家のジョージ・デュー・パイパー氏は曾て次のように言いました。

グラント大管長は性来世の多くの人よりも音楽の才能に欠けていた。けれども彼は非常な努力を以てこのハンディキャップを克服したのである(偉大な指導者の生涯四十八頁) ヒンクレレー・ブライアントS

確かに私たちが一つの任務を遂行出来たら私たちの能力は進歩して更に大きな任務遂行へと進むのであります。誠に教義と聖約に言つてある通りであります。

およそこれを受くる者は更に豊に与えらる。能力すら与えらるるが故なり。(教義と聖約 七一・六)

救主は伝導中に彼が教へようとした多くの人が目があつても見ることが出来ず耳があつても聞くことが出来ず又理解出来なかつたことを悲しみました。不幸にもこの事は私たち自身の経験にもしばしば真実であります。私たちは見ることが拒み或は知識を受けようとしません。私たちはしばしば混乱と、自己満足と不安定と確信の欠如によつて、知識と理解がもたらす喜びと完成を盲目にし、私たちは

自身を欺いています。

数年前に英国海峡を征服した偉大な女流水泳者がそれよりも短距離のカリフォルニア海岸からカナリナ島に泳ごうとしました。水は冷たくて海面には濃霧がたちこめていました。殆ど泳ぎ尽くした処で彼女は断念して、つきそつていたボートに乗せて下さいと頼みました。その後彼女は、その距離と水の冷たさが失敗させたのであらうとたずねられた時答えました。「いいえ、冷たさでも距離でもありません。それは濃霧でありました。私は目標を見る事が出来なかつた時に失望したのであります」

霧(確信と信仰の欠如)は私たちの眼をくらまし私たちは私たちの目標を見ることが出来なくなるのであります。私たちは失望し、私たちの心を閉じるので知恵と理解を得ることが出来なくなるのであります。その結果、私たちが実際に資格づけられている成就に失敗してしまふのであります。敗逐と達成の喜びを得る為には、私たちは常にその心の一つの任務をよく成し遂げたら次の任務に導かれ、その達成は、一層容易となると言うことをよく心にとめておかねばなりません。私たちは

霧、自己満足及び不安定を以て私たちの眼と心をくもらすことなり、私たちが知恵と理解の内に進歩するなら、更に豊かに与えられと言う主の約束を常に覚えておくべきであります。練習によって筋肉が強くなるように、各新しい任務の成功的な遂行は私たちの能力を強化して次の任務に向わしめるのであります。一步一步と私たちが進歩する時、私たちは知恵と知識を受け、そして強さと力を得る才能を増大させるのであります。

## 仕事会

(千九百六十四年三月の第二週)

「末日聖徒の家庭」

考察その十四、家族の伝統保存

計画

目的 過去の伝統と価値を生活に取入れ特に記念すべき事項の思いを新にして家族の結合をはかる。

私たちが価値ある家族の伝統を打建てることによってその価値を教えることを考へる時に、その人の愛国心が極めて大切に思われま

同様私たちの理想を保存し持続させる為にしつかり働らかねばなりません。すべての国民は、その国民にとって忘れられぬ記念日を持って居ります。これらの日は、通常多くの働らきと犠牲の結果、自覚された理想の絶頂を記念するもので各家庭の伝統となり毎年いろいろな様式で祝われるのであります。家庭で始めるに当って子供がまだ小さいときに愛国心をうえつけるには国旗が大切であります。各家庭にその人の国の象徴である国旗が必要であり、すべての重要な日にそれを掲げるべきであります。子供たちにその価値を知らせる伝統は一年を通じて守り行われるべきであります。

多くの国民が例年、祈りと感謝の日を持って居ります。米國が最初にそのような日を宣言したわけではありません。昔のイスラエル人は最も古い感謝祭、幕舎の祭、を祝ったのであります。主はモーセに、地の産物を集め終つたときにイスラエルの家族たちに聖なる集會に集うように、命じたのであります。家族たちは、空地に集つて、美しい木の大枝と、なつめやしの枝と、茂つた木の枝と谷のはこやなぎの枝をとつて、仮

庵を建て、ここで主を祭つたのであります。或宗教的な儀式と祈りと感謝を捧げた後、供宴にあつたのであります。(レビ記二三、三九―四一)

感謝祭は家族の集う日でありました。国民及び家族の伝統が守られる日であります。主は家族が礼拝の心を以て集るのを喜ばれると申されたのであります。先祖からの伝統を喜んで守る家族は持続する一族のきずなを築しむことが出来るのであります。家族の伝統をつくり維持することは、その家族員がたとえ千哩の海山をへだてていても結び合うところの心のきずなをつくりあげるものであります。

多くのこの特別な家族の思出がこの感謝祭の日に関係して居ります。(一九五九年十一月号 扶助教会雜誌参照)

七月二十四日は又別の家族的伝統を呼び起します。

人の宗教と礼拝の自由に対する愛は強く、その人の愛国心に結びついて居ります。今日の家族は、曾て開拓者たちが悩まされることなく自由に礼拝出来る場所を見出すべく広原をきり開いて遂に成功したそのはまれを如何にたたえることが出来るでありませんか、一

八四七年の開拓者をたたえるように子供を教えるのにどのような伝統的な行事を、したらよいでしょうか。最初の記念行事は一八四九年に行われました。國旗掲揚の後、バンドの吹奏があり、ノーヴーの鐘をならしたのであります。開兵式及びプログラムがあつた後、すべての家族が自分たちの手でつくつた土地の産物を豊かに食べたのであります。

末日聖徒の家族は皆、直接又は間接に開拓者と何らかの關係を持つて居ります。この關係が如何なるものであるうとも今日の子孫は一八四七年に人殖した又はその後に入つた開拓者たちの話を聞くべきであります。すべての家族は最初に福音を受入れた人を持っています。その人は尊敬され記憶されるべきであります。旗を掲げ鐘をならしてなせ家族の人がたすけ合つて開拓者の食事をつくらないのですか? 開拓者たちは何でも持つている者を分ち合つたので、何か分ち合うことも七月二十四日の伝統の一部であります。

クリスマスの伝統に就て多くのことが書かれ、各家族は救主の降誕を崇める、自身の独特の方法を進展させるべきであります。クリ

スマスの伝統は、世界を通じ各国それぞれ異なつて居りますが、各国に住む家族にとっては、それぞれ大切なものであります。これらの伝統は或家族がその本国を去つた後も、永くその伝統を保ち続けるほどよく、その身につけられたものであります。

家族の集いの時間はよく伝統を育成します、そのような計画又はプログラムにすべての家族が参加することは記念すべきこととなります。結婚した子供たちは、この愛すべき伝統を彼ら自身の家に設けることが出来ます。

末日聖徒にとって極めて大切な日に、その他の伝統がつくられません。父親によつて赤ちゃんが祝福を受けた次の家族の集いに於て聖書時代に又は先祖に与えられた赤ちゃんの祝福を復習することが氏名と父親の祝福の大切なことを強調することになります。パプテスマ及び按手札の日は生涯に於ける新しい出発として記念されねばなりません。家族の内て最初にパプテスマを受けた人の名は、いつでも参照出来るように常に考慮を払われねばなりません。神権聖任の日及びいろいろの職に召された日は家族の集いに於て特に認めて記

録されねばなりません。これらの集いに於て若し家族の者からの激励のメッセージをそえて聖書、モルモン経、又は教会の雑誌の申込みなどがそのほまれある家族員に贈られるなら、精神的な成長をうながすより励みの機会となるのであります。

誕生日はお祝いすべきで、その日を家族の例年の集いの日とすべきであります。けれども主の日に最上を迎えるべく定期的に毎土曜日に家を清掃し、靴を磨き、衣服をプレスすることなどの伝統は、最も強く印象づけられるものであります。

貴方の家族の伝統は何ですか？ 彼らはどうな理想を育成しているでしょうか？ 貴方の答えは貴方の家族が二十年後にどのようなものかを強く提案しているでしょう。

### 社会科学

(千九百六十四年三月の第四の集りで)

#### 「神の律法と教会制度」

第十二課 教会法廷裁判評議會  
は教会制度の本質的部門である。

目的 神性な教会の義と慈悲に就

て理解するように援ける。  
義と公平はあなたのみくらの基

いつくしみと、まことはあなたの前に行きます。(詩篇八九・一四)

それは彼はその為せる行為によりて審かれ、すべての人はその行為によりて備えられたる住家に於て各自の領分を受くべければなり。(教義と聖約 七六・一一一)

見よ、およそすでにその罪を悔い改めたる者は赦され、主なるわれもはやこれを忘るべし。(教義と聖約五八・四二)

#### 人間社会を支配する根本的哲学

この世で最大に強力な作用を持つものは愛であります。それは最も神に近い人の性格であります。それは又最も大切な人生の律法であります。イエスは神を愛し隣人を愛すことは、すべての天からのすすめと指示の根本をなすものであると言いました。

愛は成功的な人間関係に本質的な社会的律法であります。人間そのものは社会的な存在であります。彼は人及び神との相互作用の産物であります。彼は家族の中に

生れ、団体生活の経験の内に成長します。この経験から、彼は自然と彼の所属する団体の価値を知るようになります。彼のなした選択と理想の培養によつて彼は彼の家庭及び社会、ひいては彼の王国に於ける彼の地位を確保するものであります。彼は孤立してこれをなすことが出来ないものであります。救いの計画は人が如何にその隣人と成功的に生活するかに立脚して居るのであります。

#### 一、選ばれた者

前の討議で福音の大きな目的、イエス・キリストの真の使命は人類を救うことであること指摘して来しました。それは男も女も皆、神の王国に特に選ばれた者として慰安と確信を以て列席出来るよう完全な状態に導くことであります。特選の民とは神の知恵を理解し、生活の為の正しい様式を創造者の意志と計画にそつて適用することでありませう。これは決して人の自由意志を損ずるものでありません。

#### 二、救いと完成

神は人を神の形のようにつくりました。そこで神会の潜在意識は人に承けつがれて居ります。救いの計画は完成への道を含んで居り